

KWANSEI
GRAND
CHALLENGE
2039



将来構想

Kwansei Grand Challenge 2039

超長期ビジョン・長期戦略

中期総合経営計画

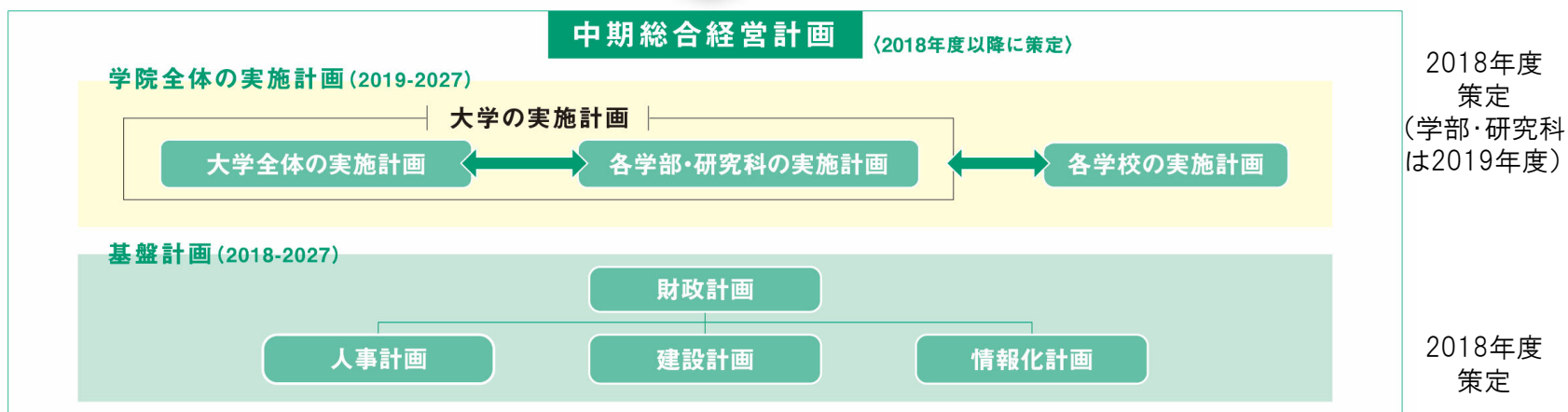
2020年度進捗報告《抄録》





関西学院 将来構想の全体像

Kwansei Grand Challenge 2039





長期戦略の全体像と主たる目標

長期戦略の
冊子より

学修成果の修得、学生の質の保証、質の高い就労

卒業生がこれからの時代に「真に豊かな人生」を送るためには、幅広い教養や専門分野の知識に加え、「主体性・タフネス・多様性への理解※」や学び続ける力、論理的思考力、コミュニケーション力、チームワーク力等の汎用的能力、倫理に基づく価値観や人間性、自律的に行動する資質が求められる。

学生は社会で活躍するための知識・能力・資質を卒業までにしっかりと身に付け（学修成果の修得）、大学はそれを保証する仕組みを確立すること（学生の質の保証）、その信頼性の高さによって学生は自らが望む就職・進路を実現させる（質の高い就労）。すべての長期戦略をこの目標に向けて収斂させる。

※ 本学がスーパーグローバル大学創成支援（SGU）に採択された構想で提示



長期戦略の全体像と主たる目標

建学の精神

キリスト教主義に基づく全人教育

ミッション

“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成

長期戦略の
主たる目標

卒業後の成果

真に豊かな人生

「強さと品位」を備えた卒業生が、
さまざまな分野で活躍し、隣人・社会・世界に貢献する

卒業段階での成果

質の高い就労

学生が自ら希望する最適な進路(就職、進学等)へ踏み出す

学生の質の保証

「学生の質」に対する社会の信頼を高める

在籍時の成果

学修成果の修得

学生が身に付けるべき学修成果を厳格に評価する

共通テーマ

総合学園と一貫教育

学士課程教育

大学院教育

研究

国際化

産官学連携

KSCでのイノベーション推進

産官学の連携強化

DX

(デジタルトランス
フォーメーション)

特長ある一貫教育の創出

国際化の推進

アイデンティティの共有

内部進学者の増加

「総合学園」の枠組み再構築

学修成果の把握・評価

教育の長期的成果の検証

カリキュラムの基本構造の改革

「柔軟な学位プログラム」の検討

教育分野の再編

国際化の推進

国連等との連携強化

正課外教育の推進

教員個人・組織の教育力向上

ICTによる教育・学修支援

対面的なコミュニケーションの促進

学修支援の充実

学生生活支援の充実

多様性と学力の担保(受入)

研究者の輩出

理系研究室の充実

高度職業人の養成

自学出身研究者比率の増加

個別研究の活性化

研究ブランドの確立

情報化

革新的な情報環境の構築

財政

積極的な投資と
強固な財政基盤の確立

新規事業の財源確保

人事

人事政策の確立(教員)

人事政策の確立(職員)

建設

施設建設・設備整備計画

マネジメント

Evidence - based
Managementの推進

二つのPDCAサイクルの統合

ガバナンス改革の継続

ブランドの構築

地域に密着したキャンパス

学生規模

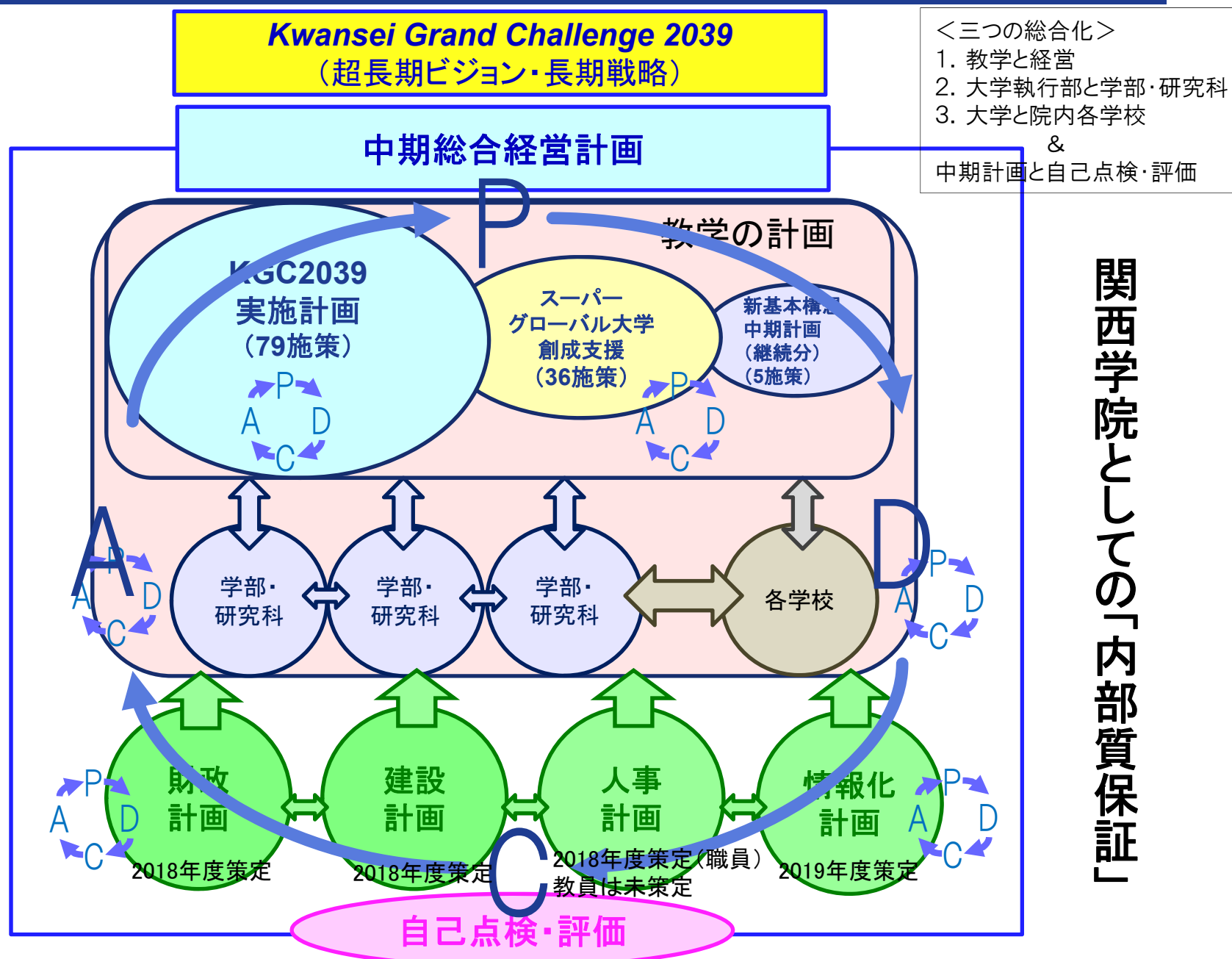
卒業生との連携

SDGsの推進

学校経営

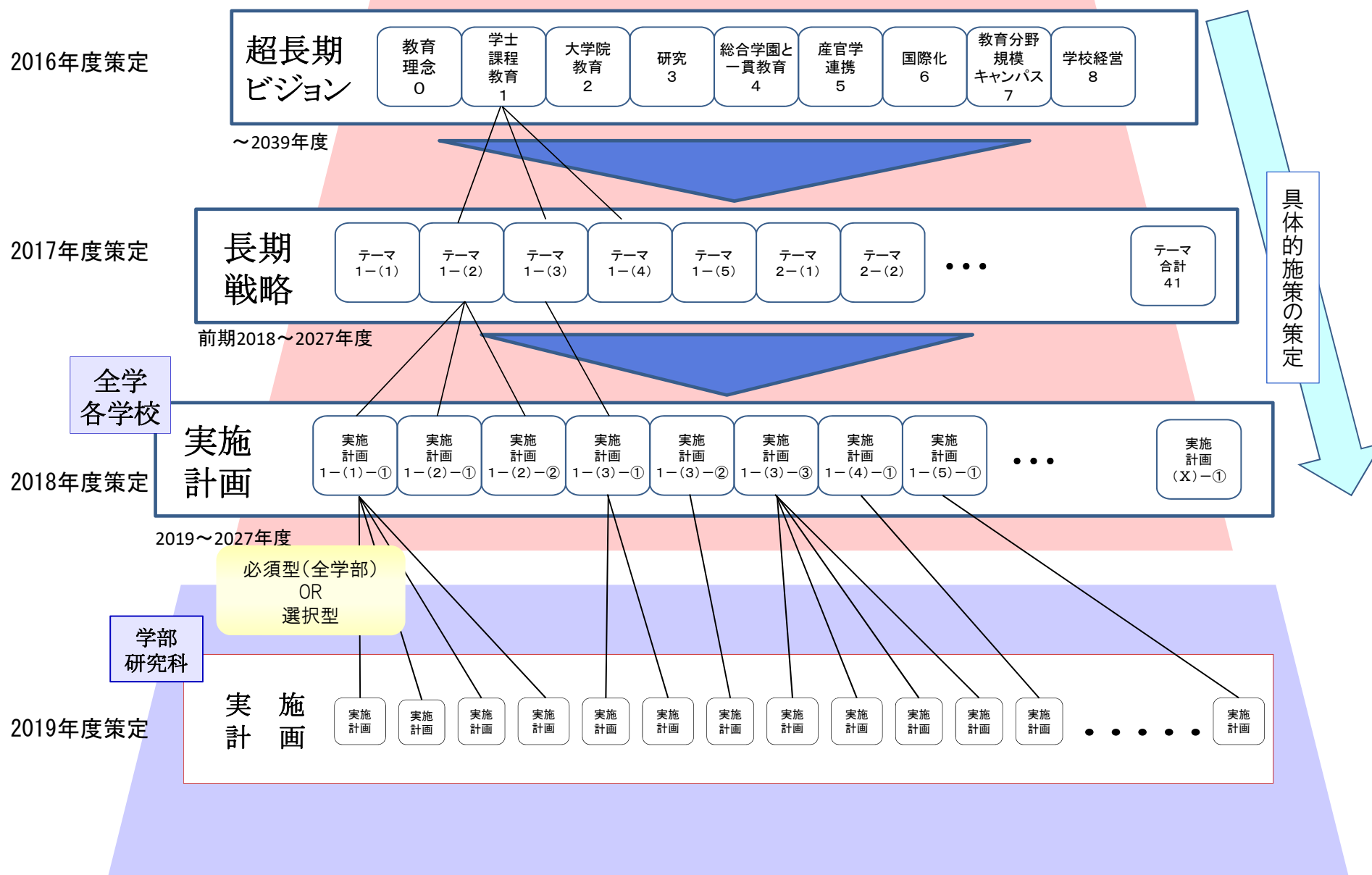


8-(10) 中期総合経営計画の策定(三つの総合化)





8-(10) 長期戦略と実施計画の構造(1)





1. 学士課程

社会や世界に貢献して「真に豊かな人生」を
送るための基盤を創る



1-(1).教育の長期的成果の検証～学修成果を把握・評価～

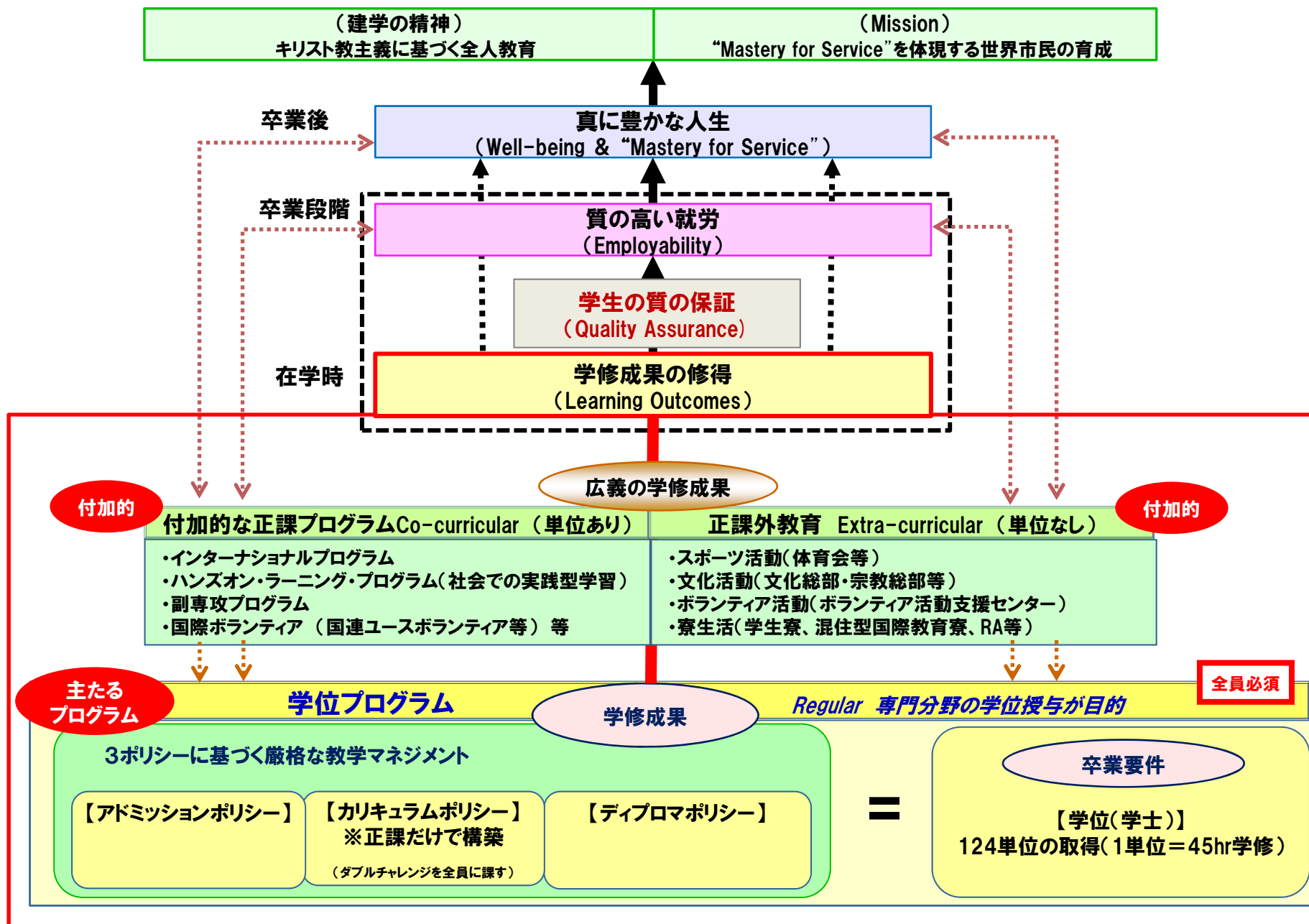
長期戦略の
冊子より

「真に豊かな人生」につながる教育成果の検証

在籍時の学修成果の修得に加えて、卒業段階での就職・進路決定、卒業後の「真に豊かな人生」の三つの段階・視点で教育の成果の包括的な検証に取り組む。そのための指標を開発・設定し、成果を可視化する。



1-(1).学修成果の修得、学生の質の保証、質の高い就労





1-(1)-①.「Kwansei コンピテンシー」の策定

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としています。その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の違いなく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけます。

「Kwanseiコンピテンシー」は、各学部の教育課程やそれを補完する全学科目等の「正課教育」だけでなく、クラブでのスポーツ・文化・芸術活動、ボランティア活動、寮生活等の「正課外教育」、さらには友人関係、教員・職員との交流、キャンパスの豊かな自然も含めた大学の多様な「環境」によっても育まれます。

(知識／Knowledge)

- 幅広い知識・深い専門性
- 多様性への理解

(資質／Quality of Character)

- 困難を乗り越える粘り強さ
- よりよい社会に変革する情熱
- 誠実さと品位

(能力／Skills)

- 論理的な思考力
- 主体的に行動する力
- 生涯にわたって学び続ける力
- 豊かな人間関係を築く力
- 対立する価値を調整する力

関西学院は、幼稚園から大学・大学院までの教育を通じて、この学院に学ぶすべての者がこれらのコンピテンシーを段階的に身に付け、高めていくことをめざします。



1-(1)-①.Kwansei コンピテンシー



Kwansei
コンピテンシー





1-(1)-④.高等教育推進センターが実施する調査

在学時調査

※2年次、4年次の★は、全学部ではなく学部判断で実施する。



卒業後調査 (卒業生調査)



- 「入学時調査」「学生調査」「学修行動と授業に関する調査」「卒業生調査」は、2017年度から回答者が紐付く記名式で実施。
- 2018年度卒業生から、新たに「卒業時調査」を実施。**（回収率2018年度約90%、2019年度約33%）
- 各調査には「Kwanseiコンピテンシー」を調査項目として取り入れている。
- 2019年度から、「卒業生調査」の対象を「78歳程度まで」に拡大して実施。**（回収率29%）
- 2019年度から、新たに無記名の「学生生活アンケート」を実施。

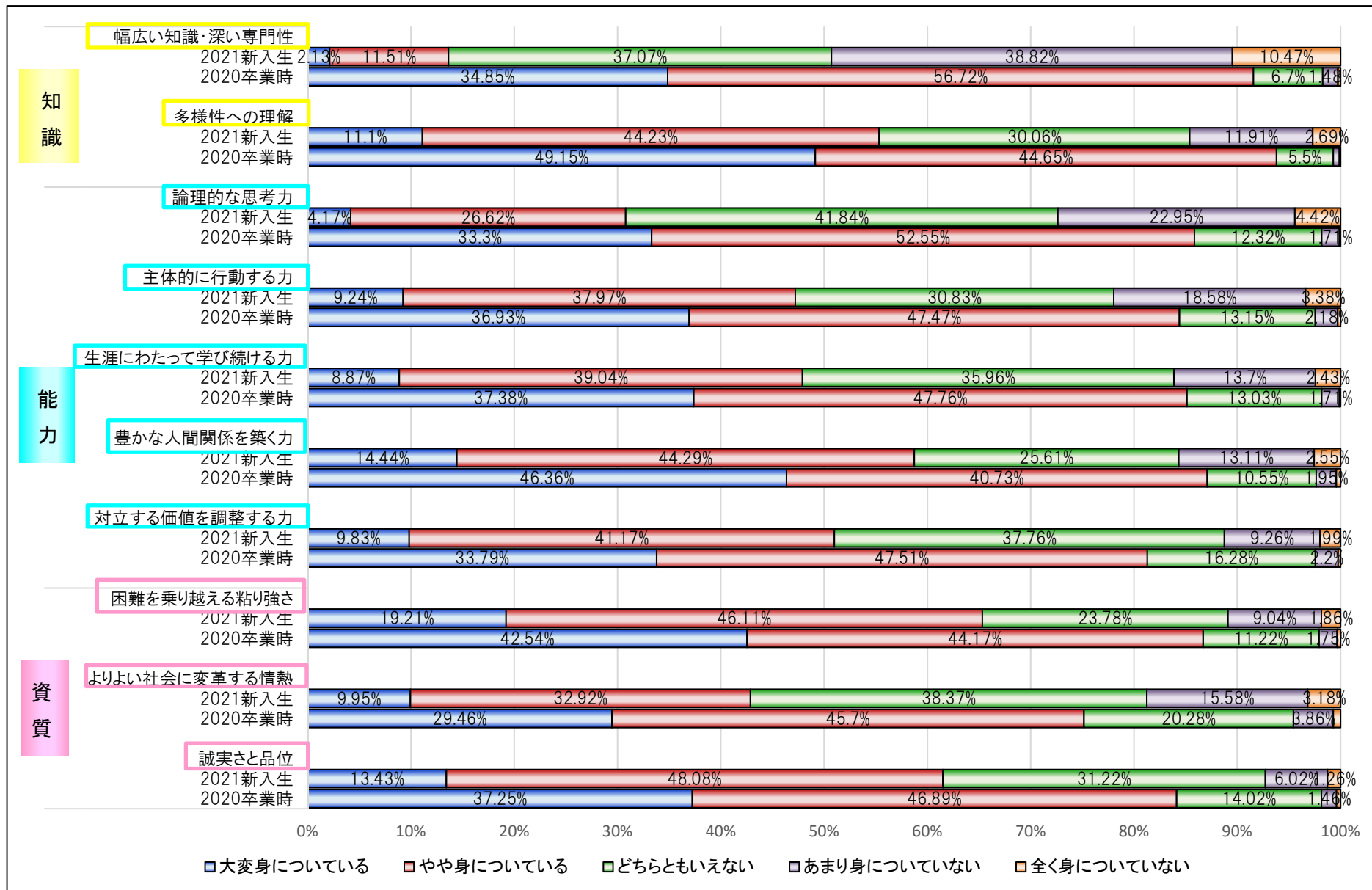


1-(1)-④「Kwansei コンピテンシー」の獲得状況

2020
年度

質問項目「現在、次のような知識・能力・資質がどの程度身についていますか」

＜2020年度卒業時調査（2021年3月実施）＞ と ＜2021年度新入生アンケート（2021年4月実施）＞ の比較





1-(3).カリキュラムの基本構造の改革

長期戦略の
冊子より

「Kwanseiコンピテンシー」を身に付ける基盤教育の確立

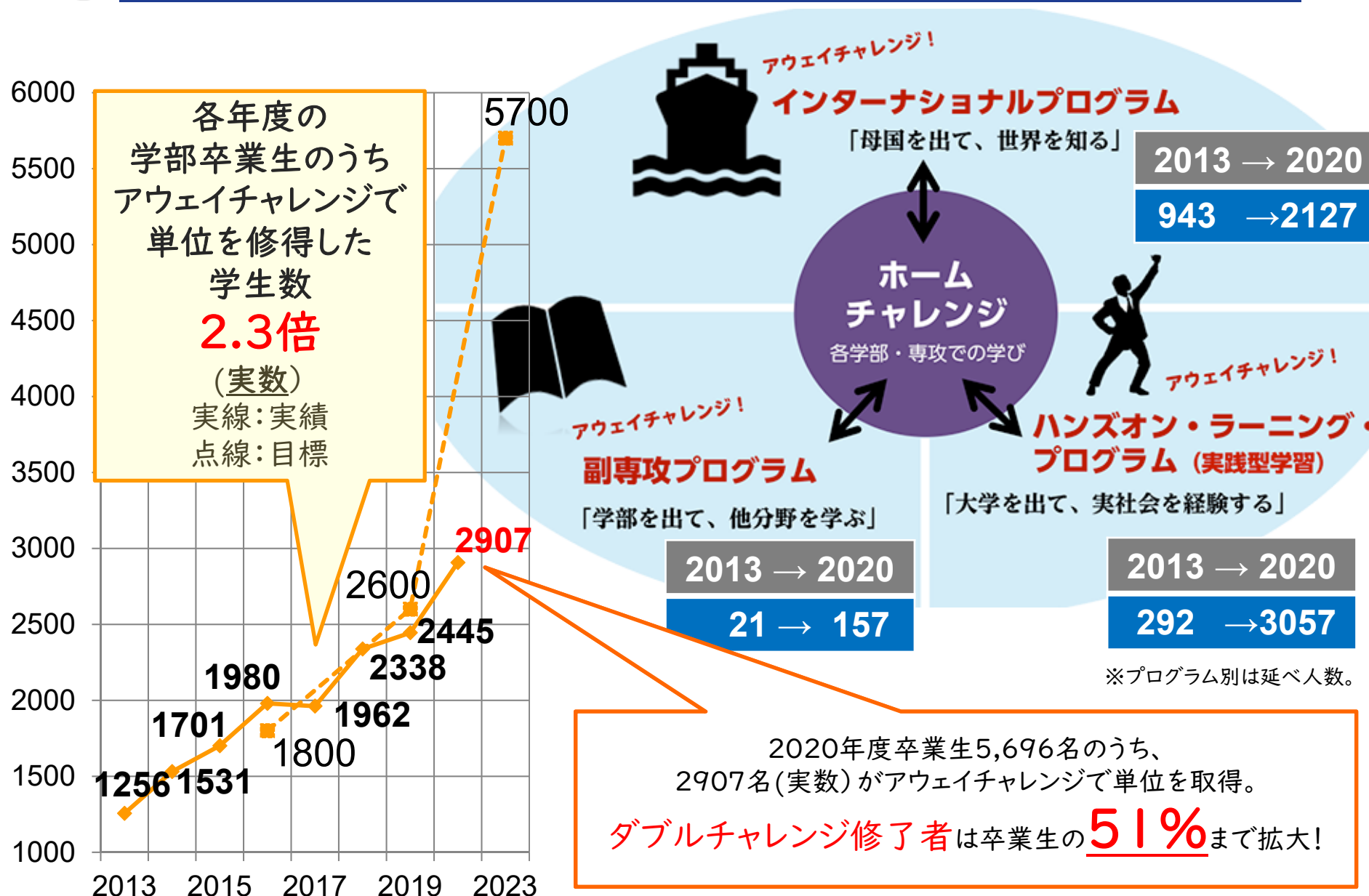
全ての関学生が学部の違いなく卒業段階で共通して身に付けておくべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」として定め、その修得のためキリスト教、スタディスキル、言語、ダブルチャレンジ※、数理・データサイエンス等の科目を基盤教育として全学生が学ぶ仕組みを検討する。

※所属学部の学びに加え、留学やハンズオン・ラーニング（社会での実践型学習）などに挑戦する独自の教育システム

- ・「卒業時調査」「入学時調査」で「Kwansei コンピテンシー」の獲得に関する検証を開始



1-(6) 全学生が挑む「ダブルチャレンジ制度」





1-(6).国際化の推進(学士課程教育)

長期戦略の
冊子より

国際基準の“Top Global University”へ邁進

グローバル化が進み、世界で活躍できる人材が求められており、本大学の最大の特長である国際化を大学全体で推進する。2023年度まではスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU＝英語名称“Top Global University”）における本大学の目標である「協定校への留学派遣2500人/年※」「留学生受入1500人/年」等に向かって進み、その後はより質の高い国際プログラム（派遣・受入・融合）を拡充することによってグローバルな教育環境を実現する。

※ 卒業生のおおよそ2人に1人が在学中に留学を経験する割合

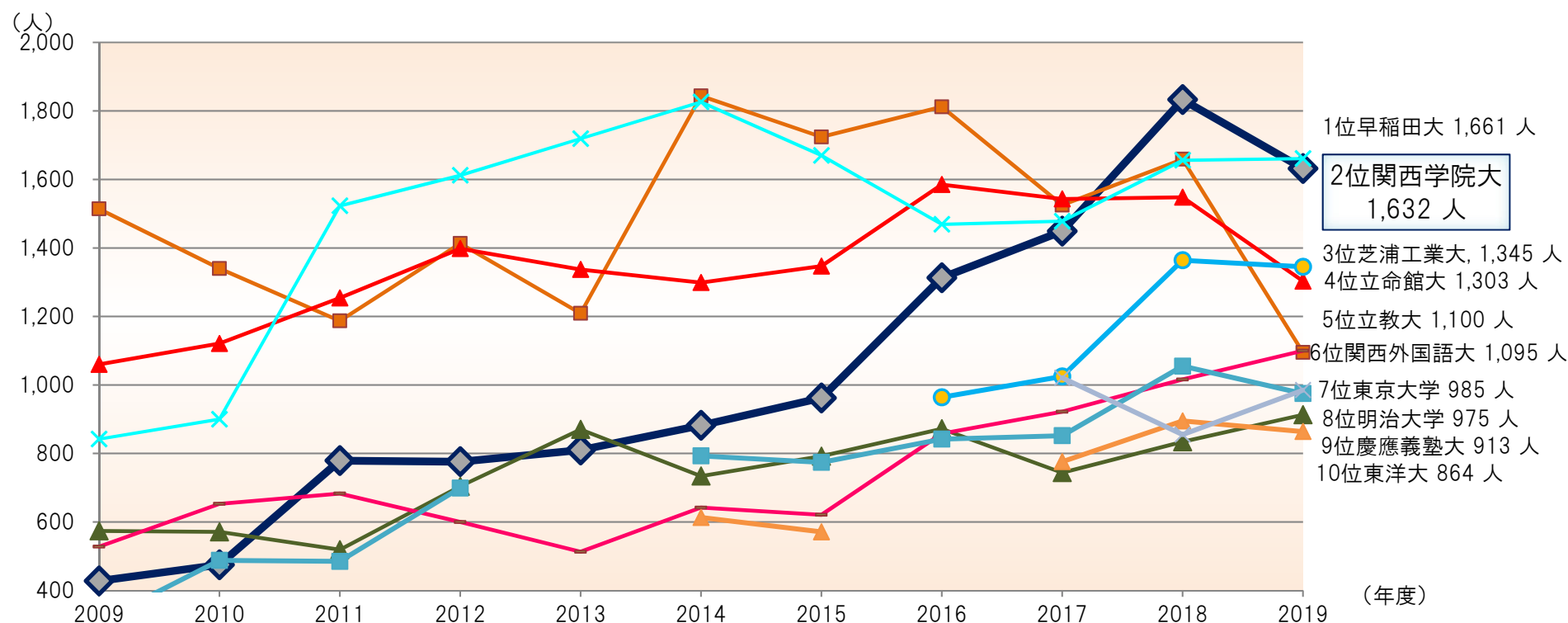
【 第2回 SGU中間評価結果（2021年3月5日） 】

A評価

S～Dの5段階評価のうち「A」は「これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」だった。高く評価されたのは、「学生の海外派遣数」「学生の英語力伸長」「留学生の受入数および受入環境（寮等）の設備」「ナンバリングやシラバス英語化の実施」等



協定等に基づく日本人学生派遣数の多い大学(2009～2019年度) 上位10校



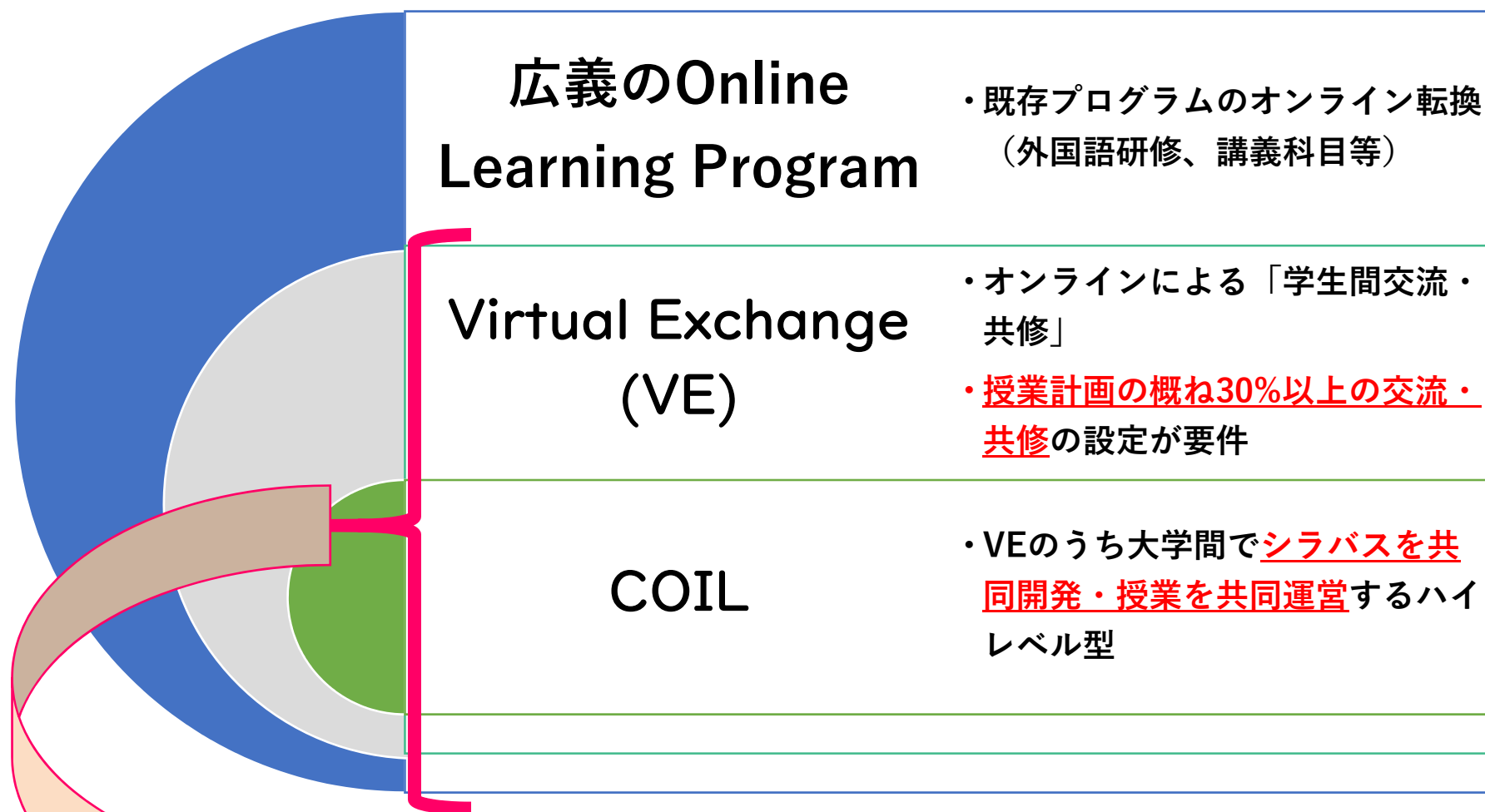
年度⇒	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
早稲田大	842	900	1,523	1,612	1,719	1,826	1,670	1,469	1,478	1,656	1,661
関西学院大	428	475	779	776	810	882	962	1,313	1,449	1,833	1,632
芝浦工業大								964	1,025	1,364	1,345
立命館大	1,060	1,121	1,254	1,398	1,337	1,299	1,347	1,585	1,543	1,548	1,303
立教大	528	653	683	600	513	642	621	858	922	1,016	1,100
関西外国語大	1,514	1,340	1,187	1,413	1,209	1,844	1,724	1,812	1,525	1,659	1,095
東京大学									1,021	855	985
明治大学	309	488	485	699		793	774	842	852	1,055	975
慶應義塾大	574	571	519	704	870	734	792	872	744	834	913
東洋大	252			395		613	571		776	895	864

※JASSO(日本学生支援機構)より抜粋 ※順位は、国公立大含む順位



1-(6) オンラインによる国際教育

2020
年度



オンライン「融合(fusion)」科目を全学的に拡充を強化

→協定大学との「質の高いパートナーシップ」が実現

→「海外渡航」が可能になればhybrid/blended型への接続が容易

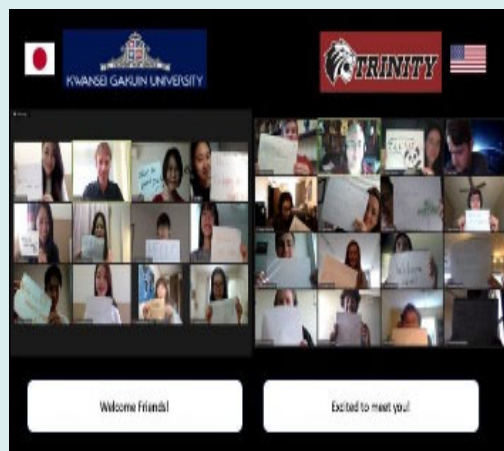


1-(6) オンライン国際教育プログラムの開発事例

COIL

Case① HR Management and Employment (アメリカ トリニティ大学)

協定国の米トリニティ大学との協働で開発したCOIL科目。本学と協定校の教員が共同指導。日本の学生がそれぞれのビジネス文化を調査・発表し、議論した。



Case② Global Career Seminar in Canada (カナダ トロント大学、マウント・アリソン大学、クイーンズ大学、ウェスタン/キングス大学)

例年協定校への派遣で実施している科目をオンラインで実施。現地企業から提示された課題に対し、日加の学生が混合グループで、解決策を立案、プレゼンテーションを行った。



VE

Case③ 異文化体験セミナー (ベトナム ホーチミン市経済金融大学)

オンライン共修のため新たに開発したプログラム。ベトナムの学生とグループで現地企業の課題解決に取り組んだ。

Case④ 外国語研修 (アイルランド、タイ、台湾、マレーシア、イギリス、オーストラリア等の協定大学)

夏季、春季プログラムとして提供。協定大学の協力を得て、現地学生との共修の比率を高めたプログラムを厳選して提供。



1-(6) オンライン国際教育プログラムの実績

2020年度に実施したオンライン国際教育

31のプログラムを14の国・地域に展開し、293名の学部生、大学院生が参加した。
(うちCOIL受講者35人、VE受講者65人)



提供プログラム(全学開講)

	プログラム数	国・地域	参加者数
交換留学	4	—	55
外国語研修(VE含む)	17	アイルランド・タイ・台湾・韓国・イギリス・アメリカ オーストラリア・カナダ・マレーシア・インドネシア・スペイン	131
国際学生セミナー フィールドワーク等、 COIL/VE型科目	5	ベトナム・カナダ・インドネシア アメリカ、オーストラリア他	89
交流プログラム	1	アメリカ	9



提供プログラム(各学部／研究科開講)

	プログラム数	国・地域	参加者数
ダブルディグリー留学	2	フランス・カナダ	2
学部・研究科科目	2	ドイツ・カナダ	7



1-(6) オンライン国際教育プログラムの成果

	海外異文化体験セミナー	外国語研修
概要	ベトナムの学生とグループを組み、現地企業から課される課題に取り組む2週間のプログラム	海外協定大学が実施する、短期集中で外国語を学ぶプログラム
教育効果	・自己評価において以下項目が大きく上昇 「自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる」 「ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブに捉え、前向きに対処できる」 「交流先国・地域の社会や文化・習慣に関する知識がある」	・英語運用能力測定テスト「Versant」で、 参加前40.4⇒参加後42.6(平均)とスコアの上昇がみられた。 また、全体の76%の学生がスコア上昇している。
満足度	参加者の満足度は100%	プログラム全体の満足度は95% 現地学生との交流の満足度は87%

➤ 教職員が想像していたよりも、オンラインプログラムは教育効果、学生の満足度は高い



1-(15).新国際教育寮「有光寮」2021年9月開寮予定



【部屋数】83部屋(81部屋、身障者用2部屋)
【居住スタイル】男女混住
【居住者】関西学院大学の学生(正規留学生、RA)
及び海外協定大学からの留学生
【入居期間】最大2年間
【管理人】常駐

国際交流を推進する空間(1階)



コミュニティスペース
FUJITA GLOBAL COMMONS(プロジェクター、スクリーン、音響設備等を設けた、幅広い学習スペース)、Residential Lounge(大型テレビ、2台のキッチンや冷蔵庫等を備えたリビングスペース)、シアタールーム、ミーティングルーム、バリアフリールーム、多目的室等

寮内の国際教育(予定)



外国人留学生との共同生活を通じて、異文化理解力・コミュニケーションスキル・語学力等を培うことができます。また、寮内での国際教育の一環として、本学の教員によるミニ講義や部活動、学生団体等と協力した日本文化体験イベント、留学生の生活サポートや交流促進の役割を担うRA(レジデント・アシスタント)が企画する毎月開催のイベント、本学のOB・OGを招いたキャリア教育イベントの開催等、多様な学生に向けた国際教育を展開していきます。

居住スペース(2～4階)



すべて個室
居住スペースの共有設備:ラウンジ(キッチン、冷蔵庫、ソファ、テレビ等を備えたリビングスペース)、トイレ、シャワー、洗濯室等



1-(3) ハンズオン・ラーニングの推進

「キャンパスを出て、社会で学ぶ」

各学部の専門に応じた
ハンズオン科目の拡大

知的基礎体力を
培う全学科目の拡大



培った「知的基礎体力」を
各自の専門の学びに生かす

2020年度全学ハンズオン科目は
新型コロナウイルスの影響により
不開講科目も多く、履修者数減少

2017年度：432名

2018年度：908名

2019年度：1,252名

2020年度：866名

ハンズオン・ラーニング・センター

(2017年度設置)

学外



社会探究



キャリア教育



学内

各学部基礎教育
全学共通教育科目
ボランティア・留学
課外活動・就職活動等



「リアルな現場」に実際に身を置き、多様な他者とかかわる実践的な学び
知的基礎体力の修得を通じた専門的学びへの架橋



1-(3) 副専攻プログラムの状況(2020年度)

開講科目	科目名称	全学プログラム	学部独自プログラム
文学部	アジア史学		28
	フランス文学フランス語学		
	心理科学		
	西洋史学		
	地理学地域文化学		
	哲学倫理学		
	日本史学		
	日本文学日本語学		
	美学芸術学		
	英米文学英語学		
	日本文学日本語学	1	
	英米文学英語学	1	
	心理科学	4	
	日本史学	1	
社会学部	社会調査士		30
	社会学	4	
法学部	企業法務	1	
	司法	1	
経済学部	日本の企業と家計	1	
	日本経済と財政金融	1	
商学部	マーケティング	4	
	会計	1	
	国際ビジネス	1	
国際学部	国際学	3	
総合政策学部	グローバルキャリア(GCaP)		6
	建築士		48
	社会調査士		4
言語教育研究センター	英語コミュニケーション文化	4	
国連・外交関連プログラム室	国連・外交	13	
合計		41	116
			総計157名



1-(5)「柔軟な学位プログラム」の検討

長期戦略の
冊子より

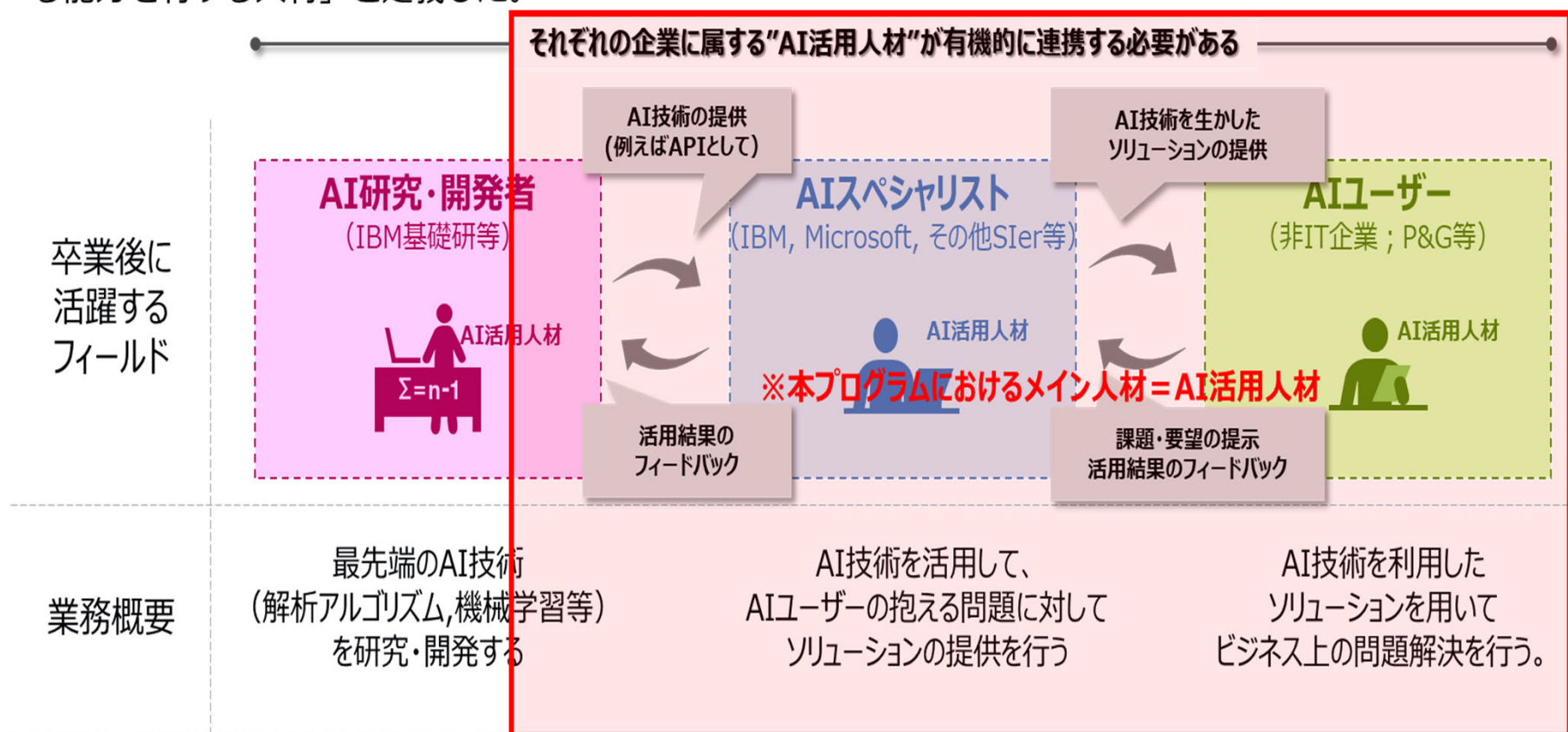
Society5.0に対応した人材輩出の仕組みの検討

20年後の社会では、AIの発達や人口減少によって、産業構造や人材需要が大きく変化すると予想されるため、既存の専門分野の統廃合、新しい分野での開設など学位プログラムを柔軟に改変できる仕組みを検討する。



1-(3)-② AI活用人材育成プログラムの創設

- AI・データサイエンス関連技術の進展とそれとともなう社会環境の急激な変化により、AI・データサイエンスに関する知識やスキルを身に付け、企業活動・経営等に活用することが求められている。
- AI活用人材を、「AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材」と定義した。





1-(3)-② AI活用人材育成プログラム(講師陣)

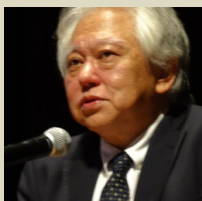
教授(講師)

関西学院大学 × 日本IBM
AI共同プロジェクト
2019年4月開講!



已波 弘佳 理工学部教授(学長補佐)

本学と日本IBMとのAI共同プロジェクトの統括。AI活用人材活用プログラムだけでなく、キャリアセンターが提供する「KGキャリアChatbot」の開発にも関わった。研究分野は情報科学。研究対象は、AIをはじめ、情報科学・数学の理論研究から様々なシステムの実用化まで幅広い。



西野 均 共通教育センター教授

前日本IBM 研究開発アカデミック・アドボケート/ヘルスケア担当(部長)。
1982年慶応大学工学部数理工学科卒、2007年慶応大学理工学部・大学院理工学研究科にて矢上賞受賞。
医療・介護エリアでのAI活用研究開発のトップランナー。糖尿病や認知症など慢性疾患におけるAI(IBM Watson)による重篤化リスク予測とその実用化等に取り組む。

岩森 俊哉 非常勤講師

早稲田大学基幹理工学研究科数学応用数理専攻修士課程修了。現在、日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所研究員。世界最大級の機械学習コンペティションプラットフォームKaggleによるコンペの一つで世界2位(7198チーム中)を含め過去10回入賞。上位成績者Kaggle Master(11万人中1200人)の一人。

陰山 真矢 非常勤講師

関西学院大学理工学部数理科学科卒業、大阪大学大学院情報科学研究科情報数理専攻博士後期課程修了。大阪大学大学院ティーチングアシスタント、関西学院大学博士研究員を経て、現在、関西学院大学理工学部数理科学科契約助手。非線形数理モデルに関する理論的研究と数値シミュレーションの研究に従事。

申込状況

(単位:人)		2019春 (定員)	2020春 (定員)	2021春
上ヶ原	AI活用入門1	272 (80)	467 (150)	2,071 (*)
	AI活用入門2	371 (80)	429 (150)	
三田	AI活用入門3	166 (80)	205 (150)	
合計		809 (240)	1,101 (450)	2,071 (*)

* 2021年春より
オンラインの為
定員上限無

科目名	キャンパス	定員	申込数(人)
AI活用入門 1	オンライン	—	2071
AI活用導入演習A 1	オンライン	—	52
AI活用導入演習B 1	オンライン	—	27
AI活用実践演習A (JavaによるWebアプリケーションデザイン) 1	上ヶ原	50	27
AI活用実践演習B (Pythonによる機械学習・深層学習) 1	上ヶ原	50	35
AI活用実践演習C(Webデザイン) 1	上ヶ原	50	33
AI活用アプリケーションデザイン入門 1	オンライン	—	100
AI活用データサイエンス実践演習II 1	上ヶ原	50	19
AI活用データサイエンス入門 1	オンライン	—	93
AI活用発展演習I 1	上ヶ原	50	11
AI活用発展演習II 1	上ヶ原	30	227

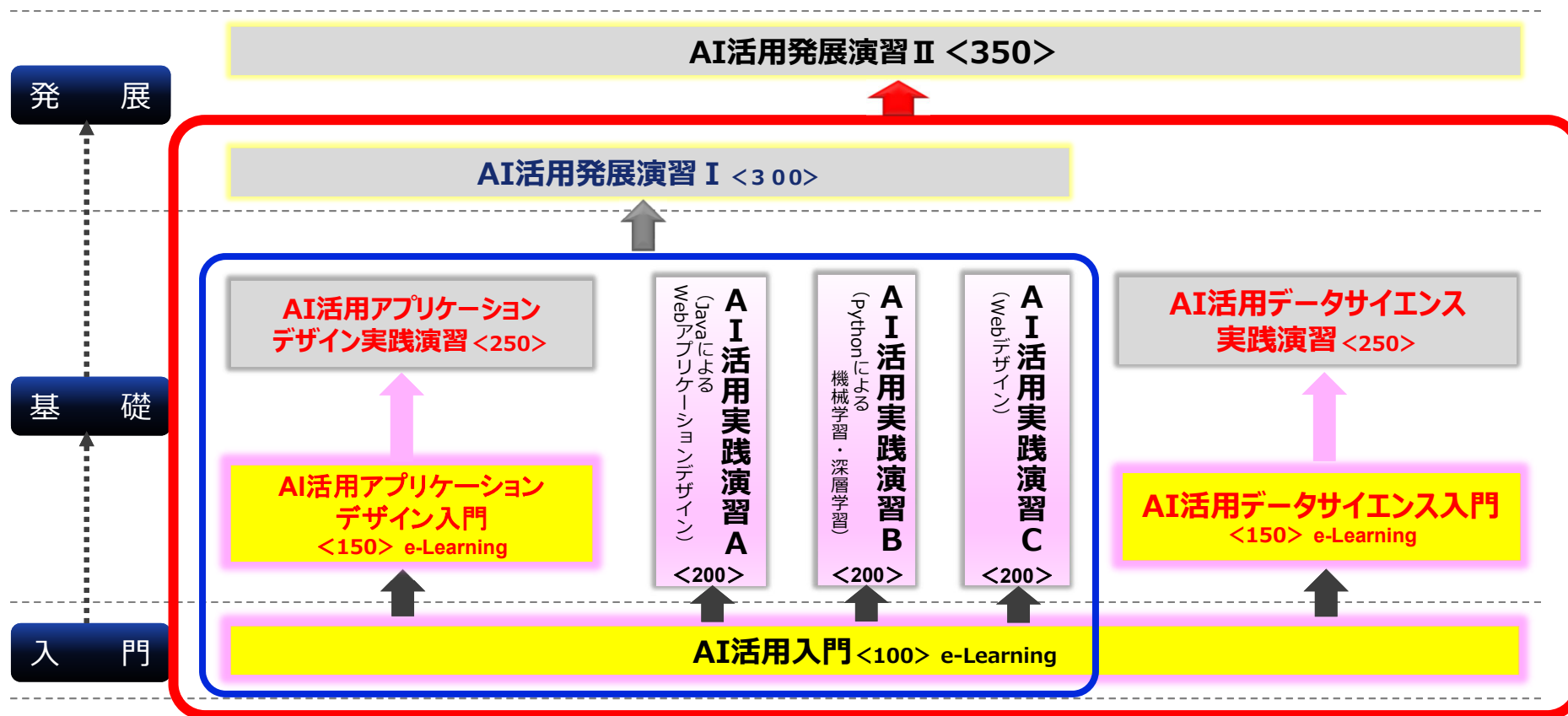


カリキュラムツリー(2021年度改編)

赤字は2021年度からのカリキュラム改編科目。

e-Learningで
2021年度開講

e-Learningで2022年度
以降順次開講検討予定





1-(3)-②V-Learningを構成する要素

【バーチャルラーニングとは】

多様なデジタル教材，コミュニケーションプラットフォーム，チャットボットなど活用した，トータルな学習体験ができる，高度なe-learningと定義

スライド説明動画 (ナレーション+字幕)

機械学習の種類

- 機械学習は、従来のプログラムで実現が困難な学習も実現可能。その中でも特に未知のデータから学習を行うことで、学習を行う手段である。
- 機械学習には、「教師あり学習」、「教師なし学習」、「強化学習」の3種類に分類される。

「機械学習は、大きく『教師あり学習』『教師なし学習』『強化学習』の3種類に分類されます」

講師の解説動画

電力使用量、気温、湿度の関係を可視化する（データの読み込み）

- 電力使用量と気温、湿度の関係を可視化する（データの読み込み）
- 電力使用量と気温、湿度の関係を可視化する（データの読み込み）

「最高気温と電力消費量の関係性を表すこのデータから...」

デモ動画

※開発者ツール デモ画面

※アプリ画面

「Node-REDにて開発したプログラムをデプロイすると、アプリ画面は更新され...」

TAチャットボット

「TAチャットボット」

参考動画

FUTURE with COGNITIVE COMPUTING

オンラインテスト

問題7

ニューラルネットワークの役割として正しいものをすべて選びなさい

- ニューラルネットワークは、単純パーセプトロンから始まり、多層パーセプトロン、深層学習へと進化しました。
- ニューラルネットワークは教師なし学習の代表例である。
- ニューラルネットワークを用いれば、少ない学習データで精度の高い予測が可能となる。
- ニューラルネットワークの学習では、入力データから計算された出力と期待される正解値の間の誤差を最小にするように各ニューロンの重みとバイアスを最適化することである。

次へ進む（すべて選択後に押してください）

ワーク

問題解説【演習1】：数値予測と可視化を考える

「数値予測と可視化」

コミュニケーション

「コミュニケーション」



1-(3)-②オンライン認証の仕組み

・なりすまし防止、不正防止のための仕組みを導入。



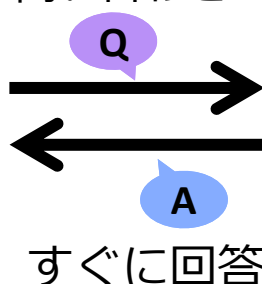
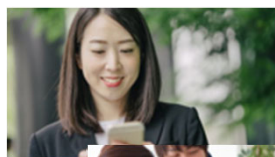


1-(3)-②新開発TAチャットボットによる学習サポート

TAチャットボット

学生

講義でわからないことを
気軽に問い合わせ



- ・ 講義内容の不明点等を
TAチャットボット※に質問
- ※ TA(Teaching Assistant)を行う
AI技術を用いたチャットボット
- ・ 高度な質問や相談は担当教員に

即応性：いつでも、どこでも

気軽さ：相手は教員でなくAI

均質性：同一質問には同一回答

拡張性：学生数増にも容易に対応

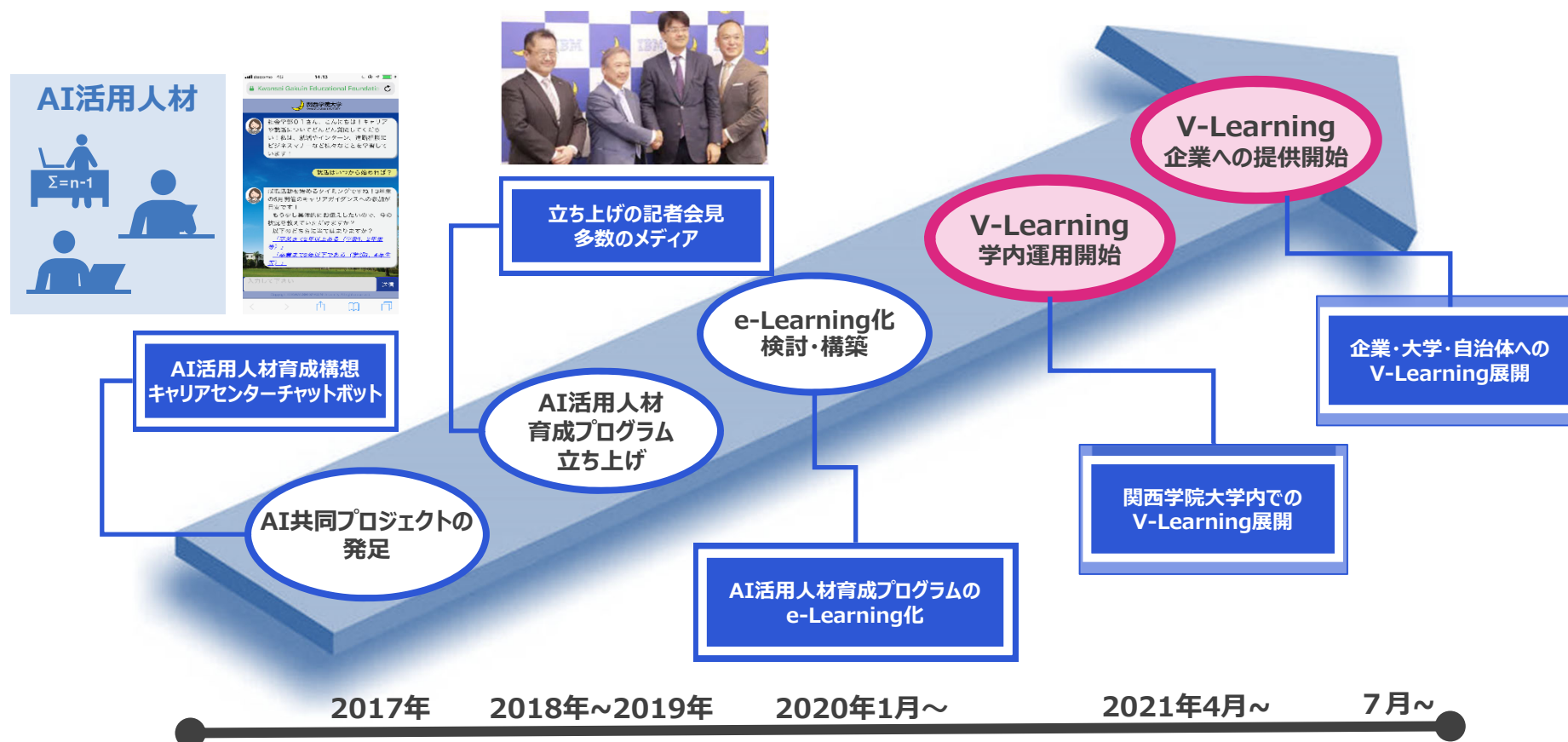
負担減：教員はTAチャットボット
が答えられない高度な
質問や相談のみに対応

(本学担当教員、既習学生、IBA専門家が作成・更新)



AI分野における関学とIBMのこれまでの取り組み

関学とIBMは2018年度に共同プロジェクトを発足し、AI活用人材育成プログラムを立ち上げる等、強い繋がりがある





1-(4) 教育分野の再編(理系分野の強化含む)

長期戦略の
冊子より

教育分野の再編とKSCの競争力強化

AIをはじめとする情報技術は日進月歩であり、産業における人材需要は大きく変化していく。関西学院大学が競争力を担保するためには、その変化に応じて新たな教育分野の開拓と既存分野の拡大・縮小を組み合わせた再編が必要となる。

まず神戸三田キャンパス（KSCの競争力）を高めるため、総合政策学部および理工学部の再編することから始め、三田市や兵庫県とも連携した「知の拠点」となるべく、本大学の魅力を高めていく。



1-(4) KSCの学部再編・新設・活性化(7-(3)関連)

関西学院大学は2021年度、理工学部を改組・発展させ、理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の4学部を新設した。これにより、神戸三田キャンパス（KSC）は、従来の2学部体制から、新設4学部と総合政策学部の5学部体制へと変わり、さらに質の高い充実した教育・研究を実現。

2学部から5学部へ





1-(4) KSCが5学部体制へ(7-(3)関連)

学部		学科	定員	目的
新設 4学部	理学部	数理科学科	54名	数理的な思考・問題解決能力を身につける
		物理・宇宙学科	60名	物理現象・宇宙の謎に迫る
		化学科	66名	基本原理を探究し化学の発展に貢献する
	工学部	物質工学課程	55名	物質科学からエネルギー問題を解決する
		電気電子応用工学課程	60名	電力を有効利用し持続可能な社会に貢献する
		情報工学課程	90名	A I や感性など多彩な I T を学ぶ
		知能・機械工学課程	60名	知能との融合による機械システム技術を学ぶ
	生命環境学部	生物科学科	61名	生物を科学的に分析し、環境と生命の共生を考える
		生命医科学科	84名	生命科学の基礎から医学応用まで学ぶ
		環境応用化学科	83名	化学的アプローチで、環境にやさしい社会を創る
	建築学部	建築学科	132名	グローバルな視野で建築と都市の未来を創造する
既存 1学部	総合政策学部	総合政策学科	495名	※海外でのPBLプログラムを創設するなどして教育面をさらに充実させる（活性化）
		メディア情報学科		
		都市政策学科		
		国際政策学科		

KSCキャンパス全体の収容定員は、5,220人から5,200人となる(学部生のみ)。



1-(4)-② KSCコンセプト “Be a Borderless Innovator.”

1. 地球規模課題に革新を起こす探究

—“Sustainable Energy”の一大研究拠点を形成

KSCにおける重点研究テーマを「持続可能なエネルギー（Sustainable Energy）」とします。国連SDGsの目標の一つでもあり、KSCには次世代有機EL（理学部）、パワーエレクトロニクス（工学部）、人工光合成（生命環境学部）など注目を集める関連研究が集積しています。建築学部もスマートシティなど持続可能な建築と都市の実現に取り組みます。総合政策学部もSustainabilityが中核テーマであり、文理の研究力を結集して一大拠点の形成をめざします。

2. 国境を越えた学び

—海外学修を含む国際プログラムを大幅に拡充

学部の専門分野に即した海外学修科目（PBL＝Project-based Learning、フィールドワーク、実習、インターンシップ等）を大幅に拡充し、学生たちが世界各地で社会的課題に各国の学生らとともに取り組む国際プログラムを充実させます。1995年の開設時から国際性で高い評価を得ている総合政策学部はもとより、生命環境学部や建築学部がKSCの国際化をけん引します。

教育・研究 4つの特長

3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び

—分野横断型の教育システムを確立

工学部は①分野融合のカリキュラム②他領域科目の履修③隣接分野のマルチプルディグリー（複専攻）を特色とした課程制を、建築学部と総合政策学部間は双方の分野を学べるメジャー・マイナー制度をそれぞれ導入します。また、5学部の専門分野における基礎的な科目からなるKSC科目群（12科目群）を設け、KSCの学生に他学部の科目群を履修することを強く推奨します。これらにより、文系・理系、学問分野を越えて複眼的な視点を持つ人材を育てます。

4. 大学の枠を越えて実社会で起業する学び

—アントレプレナー育成プログラムの創設

理学部が母体となってアントレプレナー育成科目を創設し、総合政策学部が提供する経営学、知財、会計、マーケティング等の科目で構成される科目群や日本IBMと共同開発した「AI活用人材育成プログラム」（10科目）とを組み合わせることで、学生の起業を後押しします。また、本学同窓のベンチャー企業創業者らに支援を受け、インキュベーション（孵化）機能を整備して共同で起業家を輩出します。



1. “Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

教育・研究
4つの特長

①次世代パワー半導体

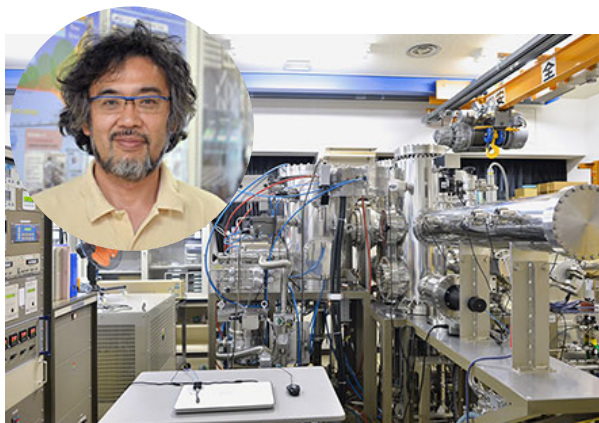
- SiC(シリコンカーバイド)を材料に、「電気自動車」へ搭載して地球温暖化へ貢献
- 豊田通商との大型共同研究の成果
- 工学部電気電子工学課程の大谷昇教授や葛原正明教授(GaN)、鹿田真一教授(ダイヤモンド)らと半導体材料のさらなる研究を進める。

②次世代有機EL

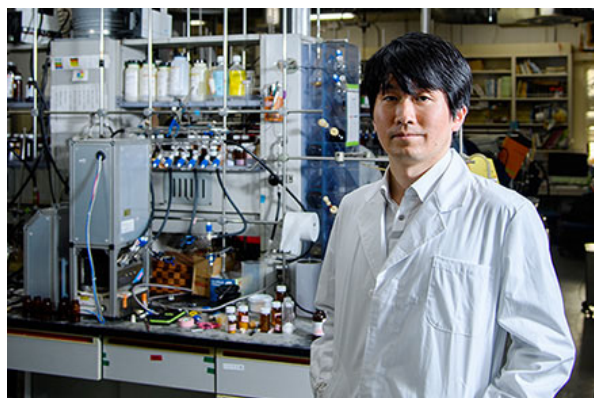
- 有機EL用青色発光新材料「DABNA」を開発し、ハイエンドスマートフォンに搭載され、省エネに貢献
- JNC石油化学との共同研究の成果
- 2019年には、さらに高性能・高機能を有する「v-DABNA」を開発。

③人工光合成

- 水素と大気中のCO₂でメタノールを人工的に合成し、地球温暖化とエネルギー枯渇問題に貢献
- 前任校では国プロ(政府研究開発PJT)のCREST(JST:戦略的創造的研究推進事業)に採択



①金子忠昭 工学部教授



②畠山琢次 理学部教授



③橋本秀樹 生命環境学部教授



1. “Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



教育・研究
4つの特長

・ SDGs ゴール7に取り組むKSCの教員一覧

所属学部	教員氏名(50音順)	<合計36名>
理学部	阪上潔准教授、重藤真介教授、高橋功教授、田中大輔教授、 谷口亨教授、畠山琢次教授、平賀純子教授、矢ヶ崎篤教授、 山口宏教授	<9名>
工学部	大谷昇教授、大屋正義准教授、小倉鉄平教授、金子忠昭教授、 葛原正明教授、作元雄輔准教授、鹿田真一教授、鈴木基寛教授、 田中裕久教授、日比野浩樹教授、藤原明比古教授、巳波弘佳教授、 吉川浩史教授、若林克法教授	<14名>
生命環境学部	橋本秀樹教授、羽村季之教授、藤原伸介教授、増尾貞弘教授、 松田祐介教授、森崎泰弘教授	< 6名>
建築学部	角野幸博教授、金容善教授	< 2名>
総合政策学部	On-Kwok LAI教授、西立野修平准教授、朴勝俊教授、 村田俊一教授、関根孝道教授	< 5名>



1. “Sustainable Energy” に関する学長指定研究

■研究課題

『持続可能な社会に向けた革新的エネルギー材料・システムに関する研究』

■研究メンバー

研究代表者: 吉川浩史 教授(工学部物質工学課程)

「温室効果ガス削減の鍵となる、より高性能な二次電池の応用開発に取り組む」

研究分担者: 田中大輔 教授(理学部化学科)

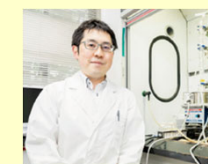
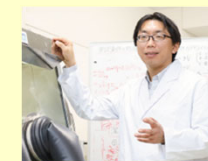
「環境問題を解決する夢の新材料『多孔性半導体材料』の開発を推進する」

大屋正義 准教授(工学部電気電子応用工学課程)

「超電導機器の開発を通して、持続可能な脱炭素社会の実現を目指す」

研究協力者: 大谷 昇 教授(工学部電気電子応用工学課程)

尾崎壽紀 准教授(工学部電気電子応用工学課程)



～エネルギーを蓄え、運ぶ～



2. 国境を越えた学び

教育・研究
4つの特長

学部の専門分野に即した海外学修科目(PBL=Project-based Learning、フィールドワーク、実習、インターンシップ等)を大幅に拡充し、学生たちが世界各地で社会的課題に各国の学生らとともに取り組む国際プログラムを充実します。

□ 海外理工学プログラム

- 理学部・工学部・生命環境学部・建築学部生対象
- 夏・春季休暇を利用して、専門的知識を英語で学ぶ
 - English for Science & Technology: カリフォルニア大学デビス校
 - NTCU Summer Program: 台湾 国立交通大学
 - Geoscience Program: 台湾 国立台湾師範大学
 - Introduction to Scientific Diving: インドネシア ディポネゴロ大学
 - Coral & Forest Study in Tropical Area: インドネシア ウダヤナ大学

□ フィールドワークプログラム

- 総合政策学部生対象
- 希望者が「全員」留学可能なプログラム
 - 台湾フィールドワーク: 台湾 国立成功大学
 - フィリピンフィールドワーク: フィリピン ニエヴァ・ヴィスカヤ州立大学

□ 共通プログラム

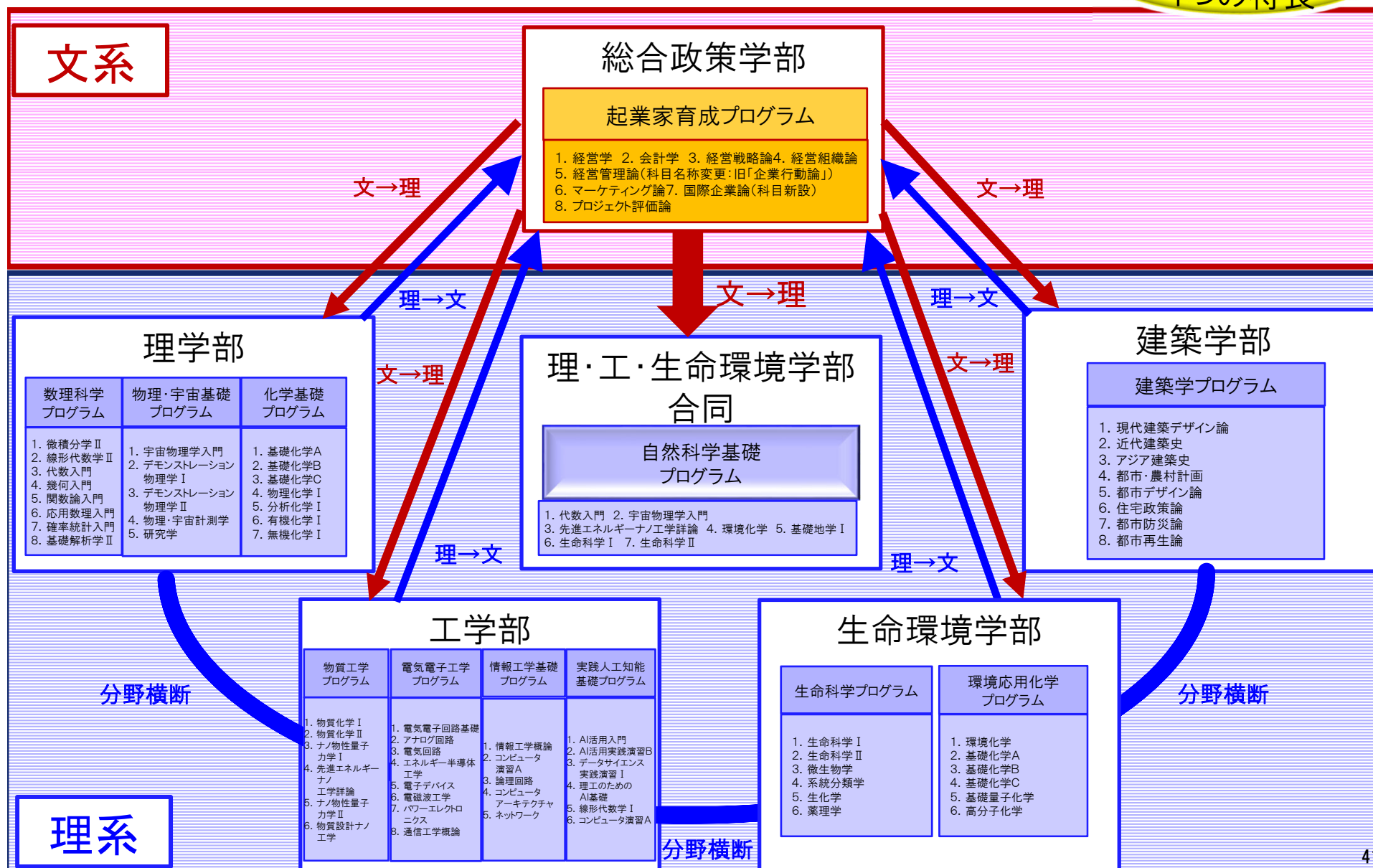
- 国連ユースボランティア
- グローバル人材・企業体感プログラム in シリコンバレー
- ソノマ州立大学英語研修&フィールドワーク



3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(1)

教育・研究
4つの特長

①KSC分野横断型プログラム(文理横断・分野横断)





3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(2)

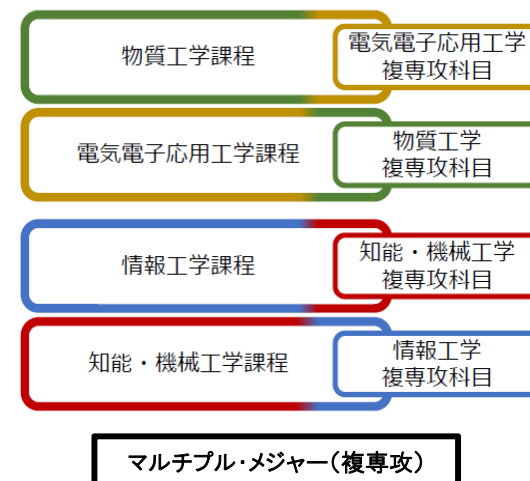
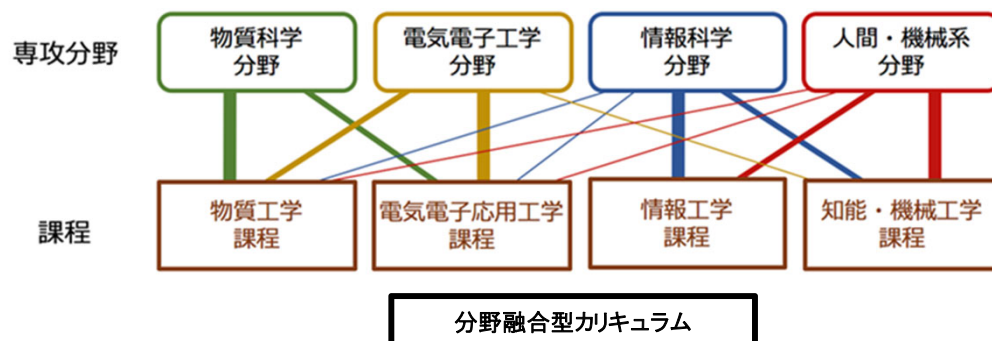
教育・研究
4つの特長

② KSC総合教育科目－「SDGs実践入門」

総合政策学部開講の科目に理系4学部(理学部、工学部、生命環境学部、建築学部)の教員が加わり、KSC5学部の教員・学生が文理の両面からSDGsの目標達成をめざして、ビジネスやNPOなどのソーシャル・イノベーションの理論と実践を学びます。若手事業家らの集まりであるNPO「グローバル・シェイパーズ」の関西地区から講師が参加します。ダボス会議の議長を務めた総合政策学部同窓の坂野晶氏も同NPOのメンバーです。

③ 工学部－「課程制」

- －隣接分野のマルチプル・メジャー(複専攻)
- －分野融合型カリキュラム



④ 総合政策学部・建築学部のメジャー・マイナー制度

- －総合政策学部生の建築学マイナー制度(建築士プログラム＝48～60単位)
- －建築学部生の総合政策学マイナー制度(20単位程度)

⑤ 総合政策学部－レイト・スペシャライゼーション

4つの学科(総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策)は取組む課題や学問的アプローチの点で、互いに関連しあっています。そのため、1年次は学科の枠にとらわれない学びを展開。2年次に学科を選択します。



4. アントレプレナー育成プログラムの創設

教育・研究
4つの特長

KSC全体での「総合的な起業家育成プログラム」

1. 正課科目による展開

- ①「ベンチャー起業家講座」(理学部開講) ②「ベンチャービジネス演習」(総合政策学部開講)
- ③「起業家育成プログラム(理系学生対象)」(総合政策学部によるKSC分野横断科目群)
- ④「AI活用人材育成プログラム」(全学開講)

2. 正課外プログラム 2017年度から実施しているものを理系学生向けにアレンジ。

- 「KG Start-up Academy for KSC」(Wilf 社:2022年春開講)

3. ビジネスピッチコンテスト

①Kwansei Gakuin PITCH CONTEST

本学出身の起業家らの前で、自らのビジネスプランについてピッチ(短めのプレゼンテーション)を行い、フィードバックを受けるコンテスト



②Hult Prize On Campus

“学生のノーベル賞”と称される、世界の学生による起業アイデアのビジネスコンテスト

HULT PRIZE
On Campus

4. KGOB“エンジェル”からの起業支援

- 起業後株式上場した経営者らが「エンジェル投資家」として約30億円の資金提供による支援を予定

5. KSCベンチャーラボ(仮称)の創設

- 学生と企業・起業家・自治体等が交流するインキュベーション機能をもった施設を検討中。



1-(2)-③.アントレプレナー養成のための各種施策の実施

2017年度より、学部生対象のアントレプレナー養成のための「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」を実施。

すでに4期目までの修了者から5社の法人設立や売り上げ1億円越えという事例も出てきています。

起業経験を積むことのみをゴールに置いていたが、想定以上に修了生や受講生が法人化
4期生は、卒業生起業家からの紹介が増え、希望者過去最大を更新。同世代ロールモデルも浸透
(株式会社ウィルフ)



「メンタリング制度」を導入！

本学出身起業家による「メンタリング制度」を2020年度より開始。起業プランの具体化に向けて、受講生一人ひとりの状況にマッチしたアドバイスを行います。年間実績112回。

「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」とは？

株式会社ウィルフとの連携により約半年(週1回)にわたる「学習×実践」による「本物の起業体験」が積めるプログラム。実践的なトレーニング、プロによるコーチングや本学出身者を中心とした先輩起業家によるフィードバックを受け、事業プランに磨きをかけていきます。受講中に起業し順調に事業を推進している修了生もあり、今後の活躍が期待されます。

	説明会 参加	受講	卒業	法人 設立	設立 準備中
1期生	52人	37人	11人	3社	2名
2期生	57人	36人	10人	1社	3名
3期生	90人	37人	14人	0社	1名
4期生	109人	36人	11人	1社	1名

KSCにおける環境整備

KSCのさらなる活性化に向けて、以下のような環境の整備を検討・推進している。

Camping Campus

アウトドア用品ブランド
「snow peak」との包括協定締結



インキュベーション施設 & 学生寮建設計画

2025年春供用開始をめざして
検討中

KSC新棟建設計画

2022年秋供用開始をめざして
建設中

三田駅前再開発構想

三田市と連携しながら、
JR三田駅前再開発構想へ
参画をめざして検討中





“Camping Campus” —snow peakと連携協定

- アウトドア用品ブランド「snow peak」との包括協定を締結(2020年6月17日)

〈目的〉

“Mastery for Service”をスクールモットーとする関西学院大学と、『自然と人、そして人と人をつなげることで人間性を回復する』ことをミッションとして掲げるスノーピーク株式会社とが、人的・知的資源を活用して、新たな学びの環境を創出し、社会に貢献する。

〈連携事業〉

- ◆ キャンパス内でのキャンプを通じた「新たな学び」の創造
- ◆ 共同研究の推進
- ◆ SDGsの推進による社会貢献

「CAMP×US(キャンパス)」 が中心となって取り組みます！

➡ KSCが大好きな学生たちが、自分たちの学びの場の明日を創造するために集まった有志

第1回プレ・キャンプ(2019.10.5～6) —CAMP×US 15名参加

第2回プレ・キャンプ(2020.2.5～6) —snow peak 11名+CAMP×US 30名 参加

「1dayキャンプ」焚火トーク(2020.12.14～16) 定員25名 3日間合計 CAMP×US 54名参加





産学連携による年間10万本のペットボトル削減



BIZCAFE



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



共同開発によるオリジナル・マイボトル



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



オリジナル・マイボトルを持参すると
多彩な飲料を無料で提供

- 理系学生と企業がPBL形式で議論できる場
『BIZCLASS』を新たに展開
 - ・理系の学びを活かしたキャリアをより具体化
 - ・社会で活躍するためのビジネスマインドを涵養
 - ・専門的な学びをさらに深化

- snow peakと学生団体「CAMP×US」が共同で開発し、推進も学生主導で進める。
- KSCの学生だけが購入できる。
- snow peakが永久保証



1-(4) KSC 学部再編イベント

2021年度理系4学部の新設、総合政策学部のリニューアルによるKSC再編を記念し、新入生・在学生にむけた3つのイベントを実施しました。

**新生KSC再編・学部開設イベント
開催**

第一弾
5月10日(月) **池上彰氏**



第二弾
5月14日(金) **隈研吾氏**



第三弾
5月18日(火) **YouTuber ヨビノリたくみ氏**



**スペシャルゲストと共に
KSCの学びに触れる2週間!**

【ファシリテーター】
ヨビノリたくみ氏

【パネリスト】

- ・総合政策学部
西立野 修平教授
- ・理学部
平賀 純子教授
- ・工学部
藤原 明比古教授
- ・生命環境学部
矢尾 育子教授
- ・建築学部
原 哲也教授

<第一弾>

『KSC5学部開設記念講演会』

2021年5月10日(月) 15:20～17:00

テーマ:「大学時代に何をなすべきか」

登壇者: 池上 彰氏

参加者数: 625名

(対面240名、オンライン385名)

<第二弾>

『建築学部特別講演会』

2021年5月14日(金) 11:00～12:00

テーマ:「ポストコロナ時代の建築と都市」

登壇者: 隈 研吾氏

参加者数: 508名

(対面127名、オンライン381名※)

※受験生含む

<第三弾>

『KSC教授陣×ヨビノリたくみ

分野横断クロスセッション』

2021年5月18日(火) 15:20～16:40

参加者数: 245名

(対面70名※、オンライン175名)

※1年生のみ



1-(7).国連等との連携強化

長期戦略の
冊子より

国連職員の輩出やSDGsの推進

本大学は、「国連・外交コース」「国連ユースボランティア」など国連・国際機関と協同して多様な教育プログラムを構築しており、地球温暖化、貧困等においてSDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）を推進する国連との連携を一層強化し、国際公共分野で人類の課題に挑む人材を輩出する。



国連・外交コース(第1期～3期) 2017年度新設/累計入学者41名*

*2021年3月末日時点

第1期生 8名 (2017年度入学者)		第2期生 10名 (2018年度入学者)		第3期生 8名 (2019年度入学者)	
所属	出身大学	所属	出身大学	所属	出身大学
総合政策	関学大 総合政策学部 (早期卒業)	総合政策	関学大 総合政策学部 4名	総合政策	立命館大学 法学部
	大阪大 外国語学部		同志社大 社会学部		カラチ大(パキスタン) Faculty of Commerce (修士課程)
国際	ICU 教養学部	人間福祉	神戸市看護大 看護学部	IBA	シドニー大(豪州) Faculty of Arts and Social Science
言コミ	大阪大 文学部		関学大 文学部		ミズーリ大学コロンビア校 (アメリカ) English
IBA	関学大 総合政策学部	国際	関学大 国際学部		大連外国語大学(中国) School of Software Studies
	タマサート大(タイ) 社会学・人類学		京都外国語大学 外国語学部		関学大 文学部
	サティヤ・ワチャナ・キリスト教大 (インドネシア) Faculty of Economics and Business(修士課程)	IBA	アウグスブルグ大学 (ドイツ) Faculty of Global Business Management		ネブラスカ大学オマハ校 (アメリカ) College of Arts and Science, International Studies Major 2名
	ベトナム商業大(ベトナム) Faculty of Hospitality and Tourism				



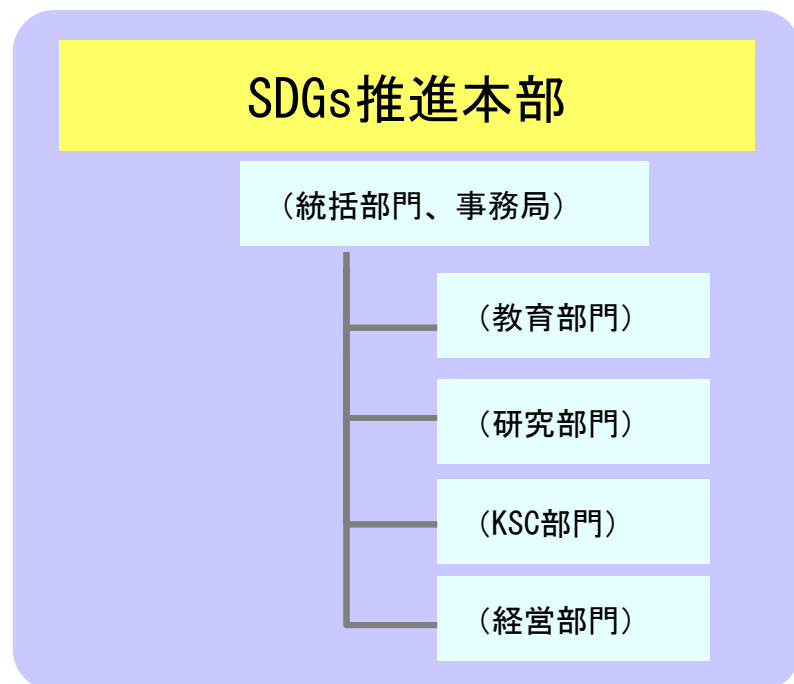
国連・外交コース（第4期・5期） 2017年度新設/累計入学者41名*

*2021年3月末日時点

第4期生 12名（1名休学） （2020年度入学者）		<ご参考>第5期生 3名 （2021年度春入学者）	
所属	出身大学	所属	出身大学
総合政策	関学大 文学部	法学	関学大 法学部
	関学大 総合政策学部 5名		江西泰豪動漫職業学院（中国）
IBA	関学大 国際学部	IBA	南京財経大学（中国）/ エクセター大学（英国）
	兵庫県立大学 経済学部		
	パジャジャラン大学（インドネシア） Economics & Business		
	デンバー大都市圏州立大学（アメリカ） English Department. Linguistics/ minor Japanese		
	淮陰師範学院 外国語学院（中国） English		



8-(12) SDGs推進本部の設置



本部長：村田治企画担当理事・学長

副本部長：小菅副学長

総合企画部・学長室・広報室

国際連携機構、教務機構、国連・外交センター

研究推進社会連携機構

神戸三田キャンパス事務室

総務・施設管理部、人事部、財務部

<目的>

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する施策の検討・実施、その取組を通じたブランディング強化について、学内の教育、研究、経営部門の緊密な連携を図ることで包括的かつ効果的に推進します。

特設サイト(<https://kgc2039.jp/sdgs/>)の設置、研究者DBの改修による研究領域とSDGsテーマとの関連性の明示、KSCにおけるマイボトル事業などの取組を推進中。





8-(12) SDGs入門科目の設置

西宮上ヶ原 キャンパス

2021年度より
SDGs入門科目「SDGs
スタディーズ入門」を全学開講予定

SDGsを「知っている」から一歩進め、
深く理解して行動するためのきっかけ
を提供

神戸三田 キャンパス

2021年度より
「SDGs実践入門」を開講し、KSC
総合科目としてKSC5学部に提供

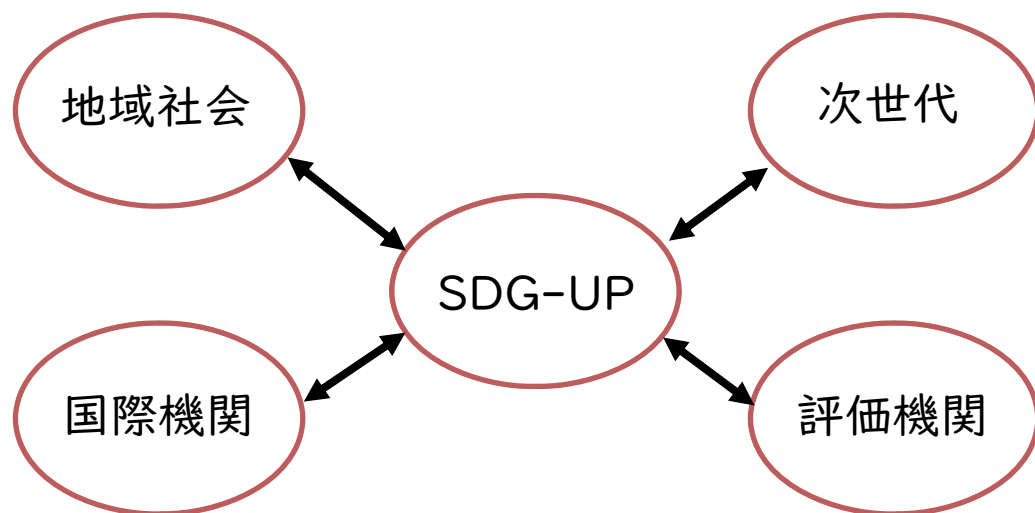
「グローバルシェイパーズ*」と連
携した実践的な入門科目

*ダボス会議があらゆる分野で活躍する
33歳以下の若者を選出した組織



8-(12) SDGs関連プラットフォームへの参画

① 国連大学SDG大学連携プラットフォーム (SDG-UP) に参画 (2020年8月)



設立目的:

- ①大学のSDGsの取組み強化
- ②国際社会で活躍できる人材育成
- ③国内外への発信、プレゼンス向上



- 29大学でスタート / 全国からSDGsに積極的な大学が参加
- 総合政策学部・村田俊一教授 (元UNDP駐日代表、元ESCAP事務局次長) が顧問を務める
- ワークショップで本学の取組を発表したり、パネリストとして登壇

② 関西SDGsプラットフォーム大学分科会 に参画 (2020年9月)

③ 地方創生SDGsプラットフォーム (内閣府) に参画 (2021年2月)

④ カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション (文科省) に参画 (2021年7月)



1-(8) 正課外教育の推進

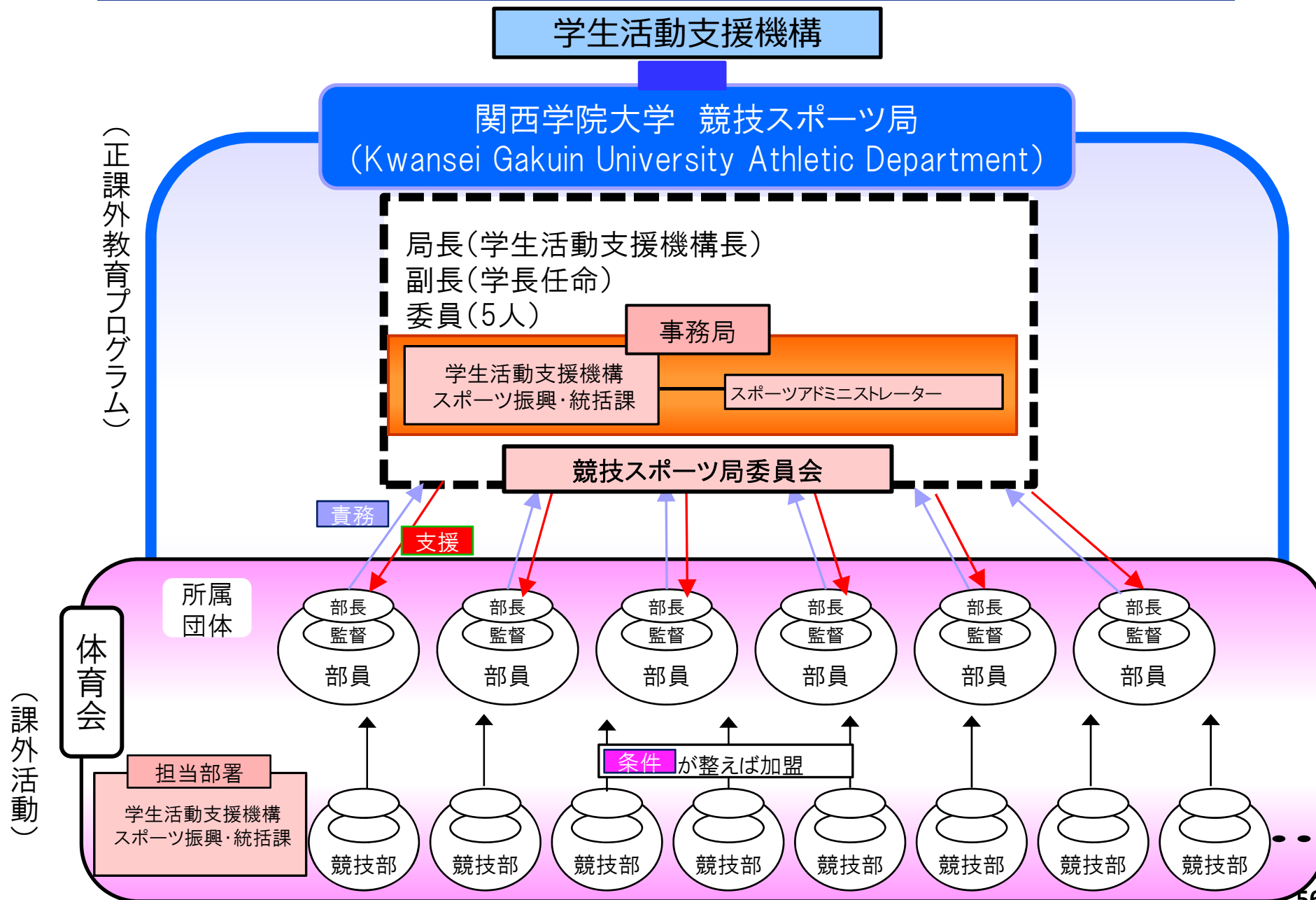
長期戦略の
冊子より

課外活動から「正課外教育」への転換

汎用的能力や価値観等は、正課教育だけでなく、正課以外の大学の多様な活動・環境によって涵養されており、これらを「正課外教育」として位置付ける。体育会や文化総部などのスポーツ・文化・芸術活動を、「学生の自主活動」であることを尊重しつつ、「大学の責任に基づく教育プログラム」へと発展させる。



1-(8)大学競技スポーツ局(KGAD)の組織構造





1-(8) KGADの目的と施策

2020
年度

2021
年度

KGADは、競技スポーツおよび関連する活動を通じて・・・Kwanseiコンピテンシーに掲げる「知識」、「能力」、「資質」を修得し、・・・「Mastery for Service」を体現する世界市民」の育成を実現することを目的とする。

主たる取組内容

施策案

安全・健康

講習会の開催、データ化
学生ATの育成・AT会議、等

安心・健全

啓蒙・研修会等啓蒙活動
指導教育、透明化、等

学業両立

AE制度拡充(学業トレーナー制度)
キャリアデザイン支援、等

競技力向上

指導者育成・援助、活動環境の充実、
ST配置、等

社会貢献
競技の普及

一般学生や地域とのコラボ企画
企業連携、施設設置、等

広報
ブランド

WEBによる動画配信、一体感の醸成、
外部資金の調達

指導者招聘のための新たな援助金制度
を創設(人件費半額を大学が支援)

学生が主体的に取り組む

競技を超越して共有連携

活動を社会に公開

パートナーシップ
(各組織との連携)



1-(12) 教員個人・組織の教育力向上

長期戦略の
冊子より

ST比の大幅な改善、教学マネジメントの推進

教育の質を高めるために基礎条件であるST比※を大幅に改善する。また、組織的な教育力向上には三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進が重要であり、まず「シラバスの精緻化」と「キャップ制（履修単位数の上限設定）の実質化」に取り組む。

※ 教員一人あたりの学生数

【目標値】 大学全体のST比

35.0 ⇒ 30.0未満
(2016年度) (2027年度)



7-(1) スパイラルアップの道程

社会的評価（ブランド）の向上

財政の健全性・安全性の確保

学生獲得力の向上
（偏差値の上昇）

OUTCOME

教員体制の増強
（ST比の改善）

INPUT

教育プログラムの魅力向上
学生支援サービスの質向上

OUTPUT

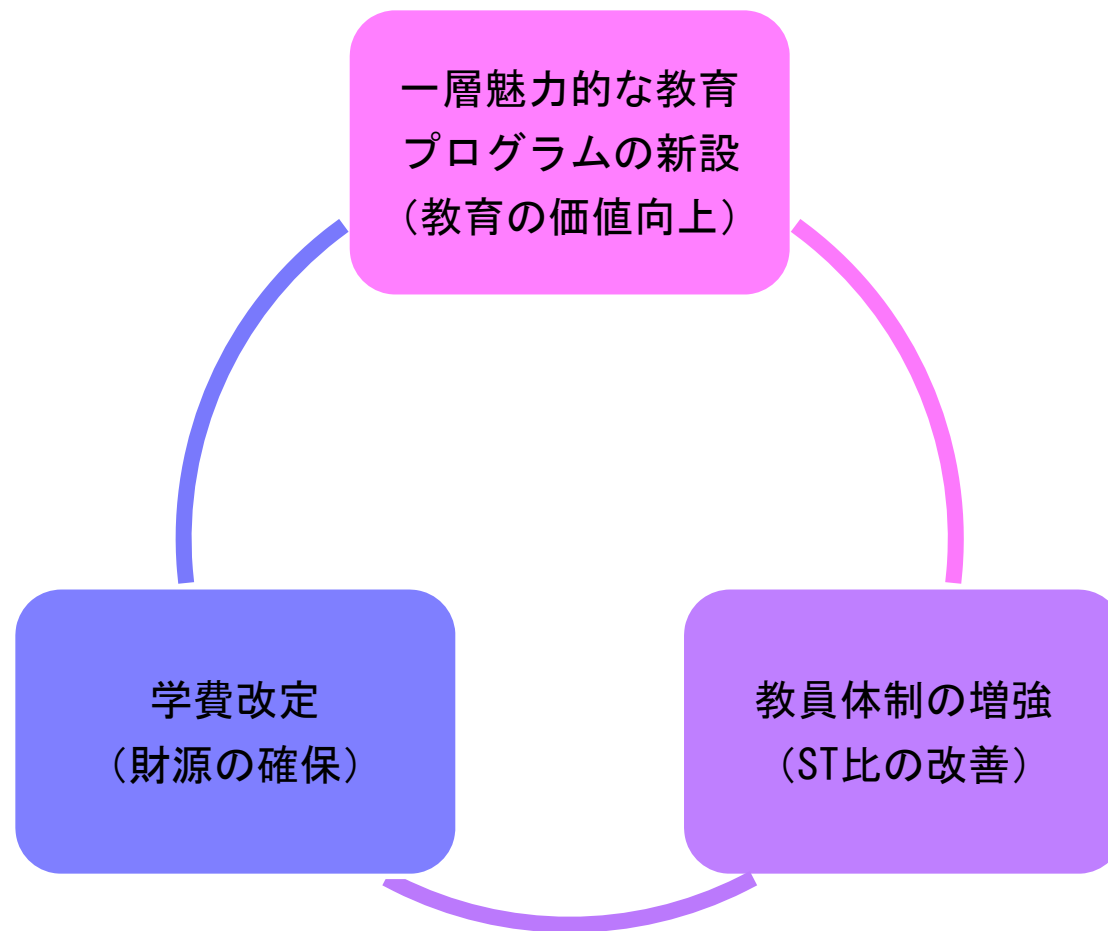
学費改定
（財源の確保）

RESOURCE

現状のままであれば、緩慢なスパイラルダウンへと進む可能性が高い



7-(1) スパイラルアップに向けた3つの必須要件



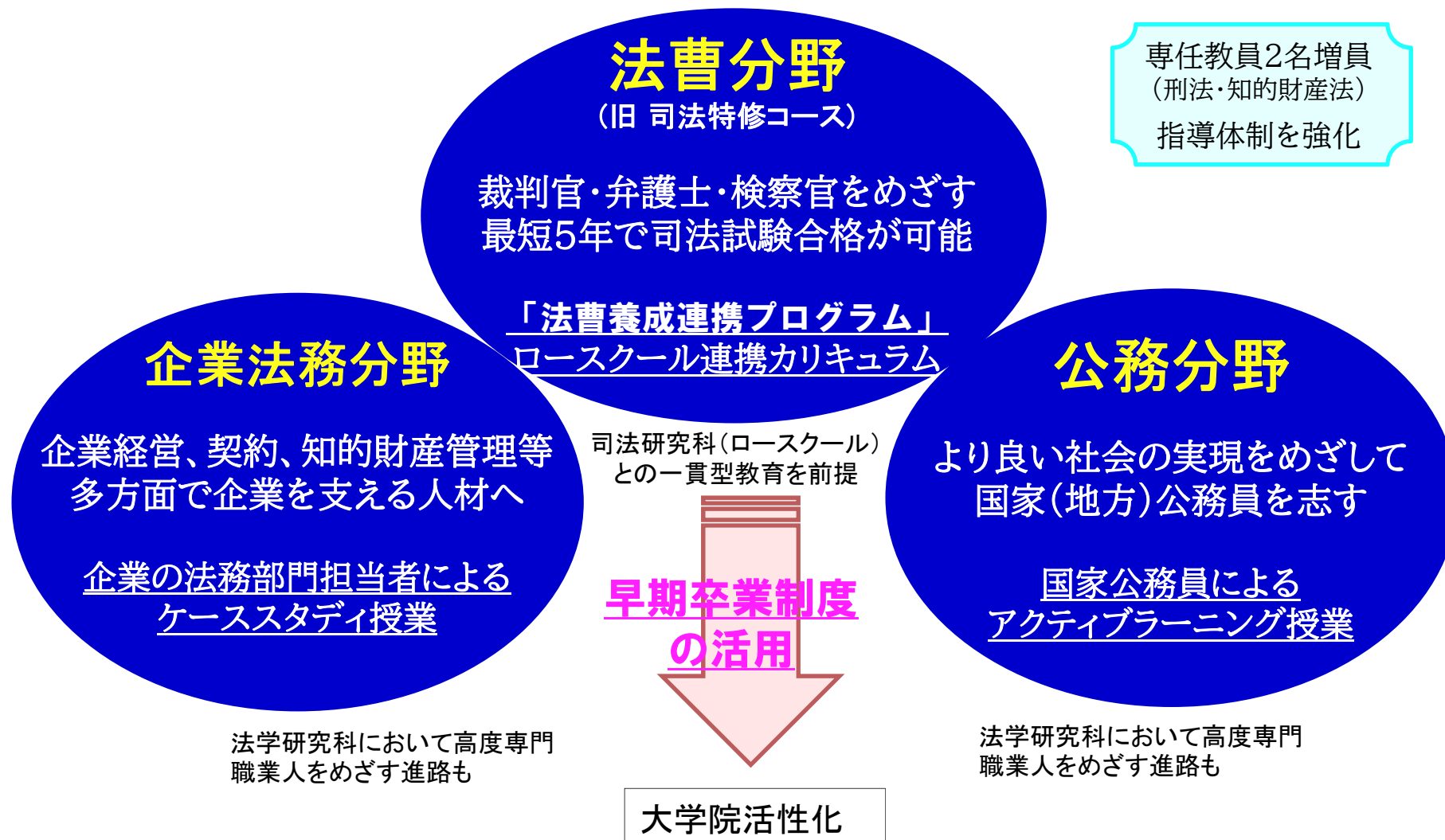
これら3つをセットした総合的な「学部教育改革施策」を2019年度より公募開始。



7-(1) 法学部の取組み

1. 特修コースを「司法特修のみ」から「法曹・企業法務・公務の3分野」へ拡充

特修コース(選抜制3分野一括募集:定員50名) ※2年生春スタート





7-(1) 法学部の取組み—「学部教育改革施策」

2. 特修コース以外のコース制の再構築 ～教育から学習へのシフト～

従来の(想定)進路別のコース設計から、学修成果(到達目標)別のコース制に再構築

日々変化し続ける社会において、幅広い分野で活躍できる応用力のある人物の育成

司法・ビジネスコース
(法律学科のみ)

公共政策コース
(経済学部連携)

グローバル法政コース

法政社会歴史コース

3. ダブルチャレンジ制度の推進

インターナショナルプログラムの新設 ～法学・政治学国際交流セミナー～

各クラスにおいて特徴的な国際交流入門プログラムを展開(2021年度より3クラス開講)

【オンライン国際交流型】

＜ベセル大学(アメリカ)＞
法律・政治トピックをテーマに
英語でのコミュニケーション

【オンライン国際交流型】

＜ネルー大学(インド)＞
SDGs等の国際的課題について
国際比較研究

【融合プログラム(対面演習型)】

正規留学生と日本人学生が
演習形式での共同学習
授業時間外での交流も活性化

ハンズオン・ラーニング・プログラムの拡充(クラス増設) ～国内フィールドワーク演習C(公共政策)～

- 京都府与謝野町を舞台に、**産官学連携での町おこし企画を立案・実行**



7-(1) 商学部取り組み「学部教育改革施策」

Society 5.0におけるビジネスパーソン育成のためのデジタル&グローバル教育の導入



学生一人ひとりがスタートアップCEO / 教員はそれをサポートするアクセラレーター

3つのカリキュラム改革案

1. Project Based Learning科目の拡充

- 「ビジネスデータリテラシー」
「国際ビジネス交渉」
「持続可能な開発と企業」等
※いずれも仮称

2. AI活用人材育成科目の学部教育への導入

- 『デジタル×ビジネスパーソン』
育成のため、デジタル教育の一環として導入

3. オンライン留学(VE/COIL)の開発と環境の整備

- 海外大学とのVE/COIL型科目の拡充
- 一定条件下での言語教育科目における卒業要件単位数の緩和
- 「研究演習」の2単位化



1-(13)-① 学修支援の充実(学士課程教育)

ライティングセンターの設置

学生の学術的な文章作成能力（ライティングスキル）の向上を支援するため、教務機構の下に「ライティングセンター」を2020年度に設置しました。

センターでは学部学生および大学院生を対象に全学科目を開講しています。また、院生や研究員を対象とした教育指導員養成研修も実施します。

2021年度からは、大学図書館地下1階（旧：アルカディア）を改修し、学部学生向けの対面指導を開催します。

<2020年春学期 スタディスキルセミナー(レポート執筆の基礎)>

担当教員		定員	申込者数 (第1希望)
時任 隼平	准教授	20人 (20人×1クラス)	35人
西口 啓太	教育特別任期制准教授	100人 (20人×5クラス)	714人
福山 佑樹	教育特別任期制准教授	120人 (20人×6クラス)	717人
三井 規裕	専任講師	40人 (20人×2クラス)	255人
野瀬 由季子	助教	80人 (20人×4クラス)	328人
合 計		280人	2,049人

2.大学院教育

研究者と、社会から求められる
高度職業人を輩出する



2-(1)「研究者の輩出」

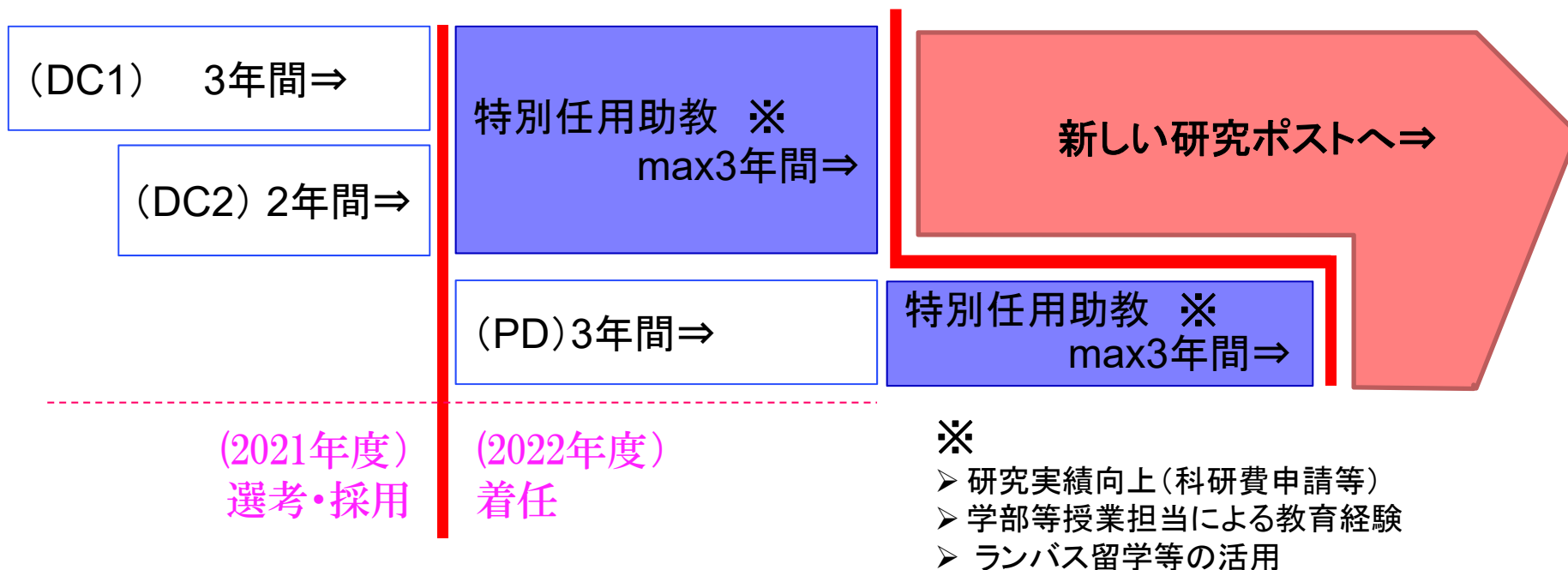
『若手研究者スタートアップ制度』を制定

日本学術振興会の特別研究員制度の採用者（DC1、DC2、本学博士後期課程出身のPD）は、特別研究員期間終了後、本学における『特別任用助教』として3年間の雇用を保証する。

（目的）

- ①本学出身の研究者を数多く輩出する
- ②特別研究員期間終了後の雇用を保証することで大学院進学を促す

博士学位取得





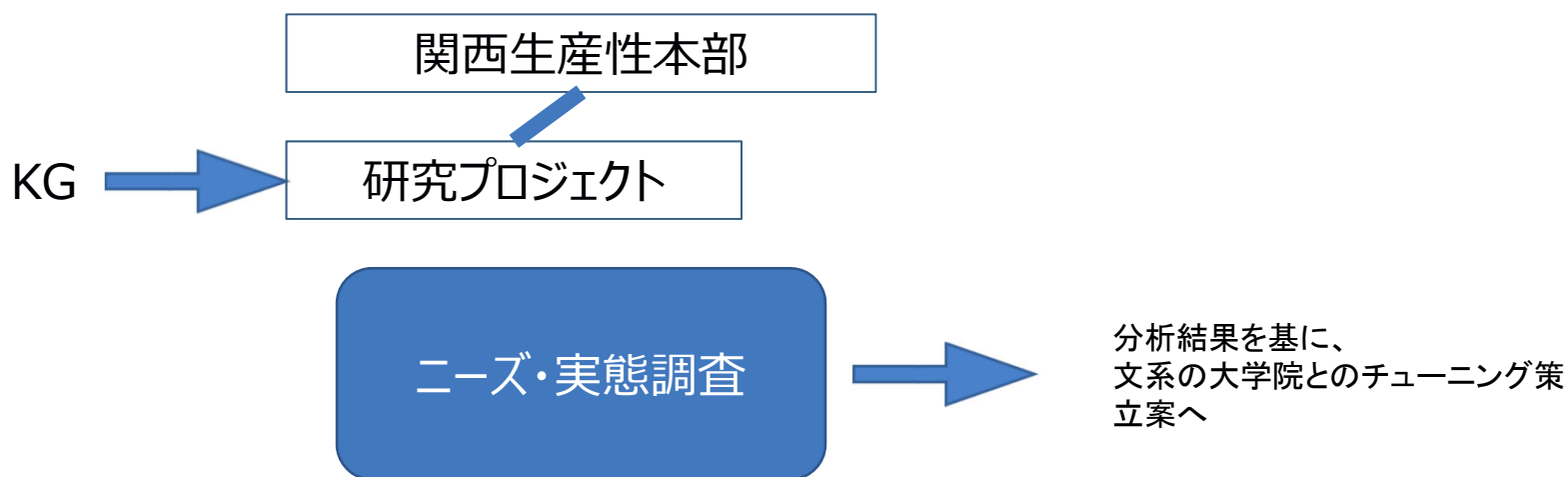
2-(4)「高度職業人の養成」

2-(4)-①

「経済団体等とのチューニング・プロジェクトの立ち上げ・検討実施」

文系における大学院で育成する「高度職業人」への需要は、産業界の要望と大学の人材育成の方針が一致しておらずミスマッチが起きている。このため、産業界と大学界で人材像や「求められる資質」を調整する「チューニング・プロジェクト」に取り組む。

2020年度は、経済団体「関西生産性本部」の中に、本学との共同の研究プロジェクトを立ち上げ、関西生産性本部に参加する企業だけではなく、日本全国の企業を対象に、ニーズ・実態調査を行った。結果の詳細な分析を基に、次のステップへ進む。



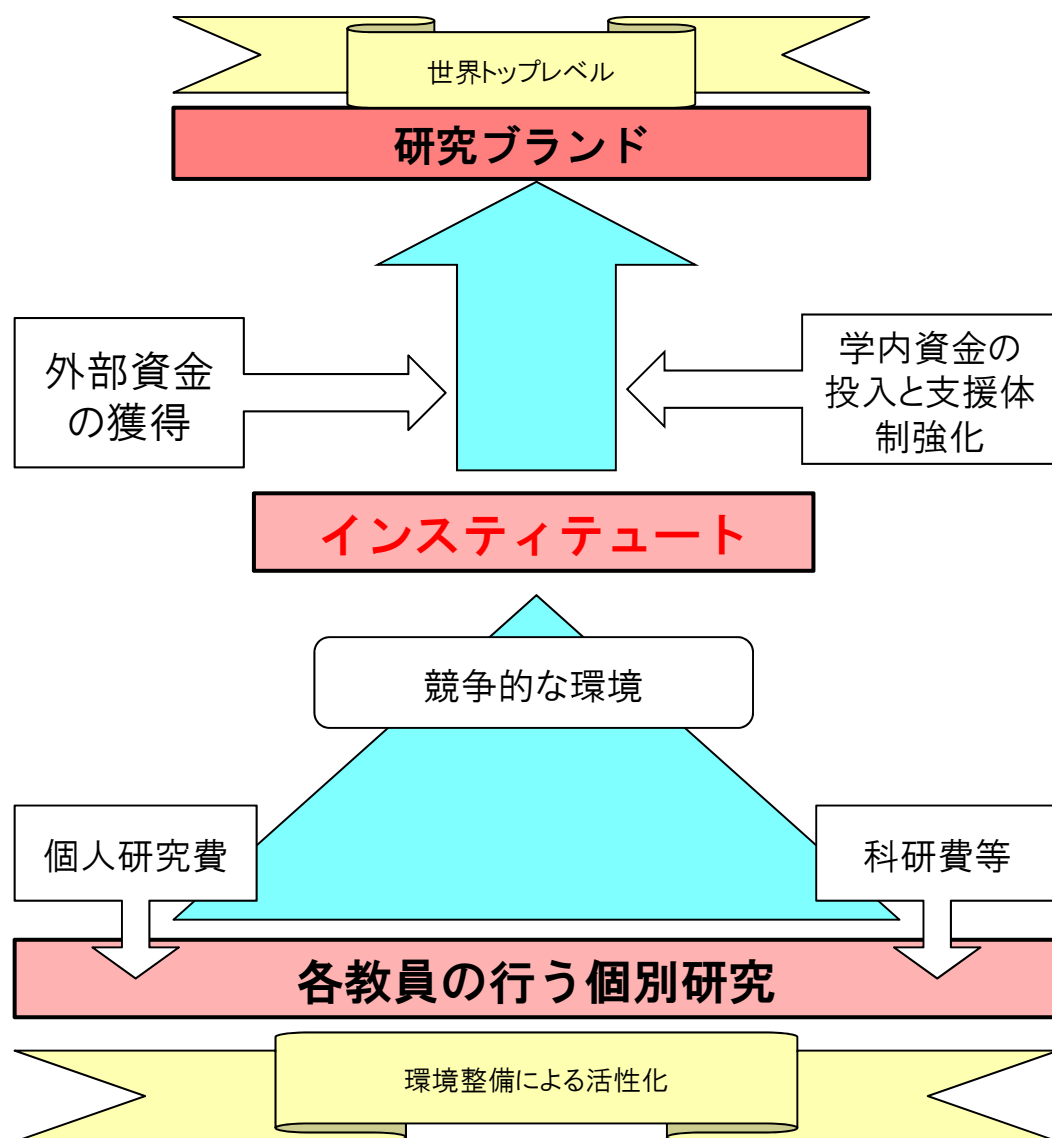


3.研究

競争的環境により、
「世界トップレベルの研究」を創り出す



3-(2)-②.「インスティテュート制度」を選定



核となる研究群(成果を積み上げた「高い実績のある研究」と大学が特定した「戦略的な研究」)を本学の研究ブランドとして確立させるため、それらの研究への物的・人的支援を強化する仕組み(インスティテュート制度)を制定しました。

研究ブランディング戦略会議が、インスティテュートとして支援する研究群を定めます。

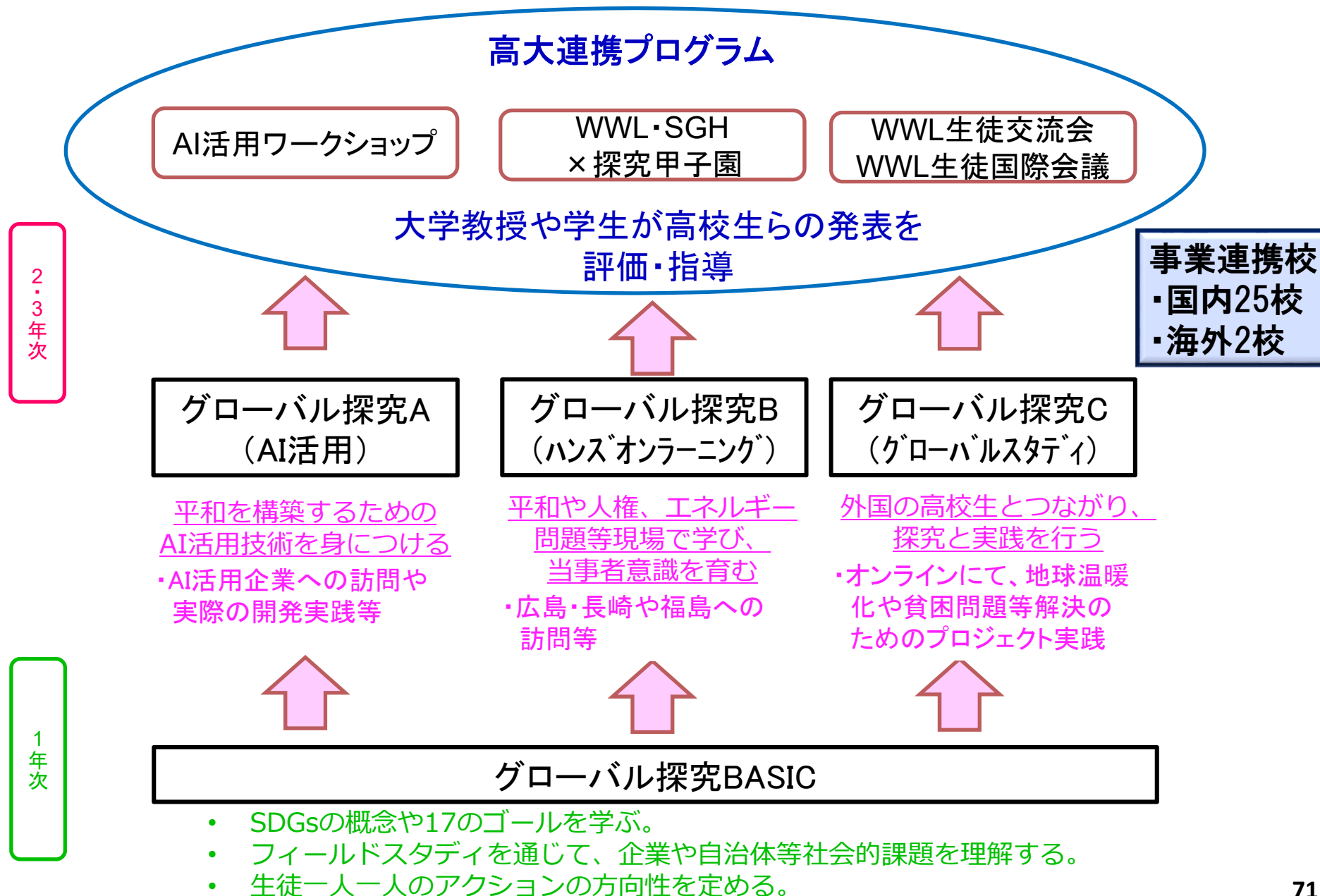
この制度を軸として、高度な研究拠点の形成が期待され、大型研究プロジェクトの採択、科研費申請数・採択数や国際共著論文数の増加を実現し、本大学を代表する世界トップレベルの研究の創出をめざします。

4.総合学園と一貫教育

建学の精神を共有し、
幹の太い総合学園を実現する



4-(4) WWL事業ー“AI活用 for SDGs”

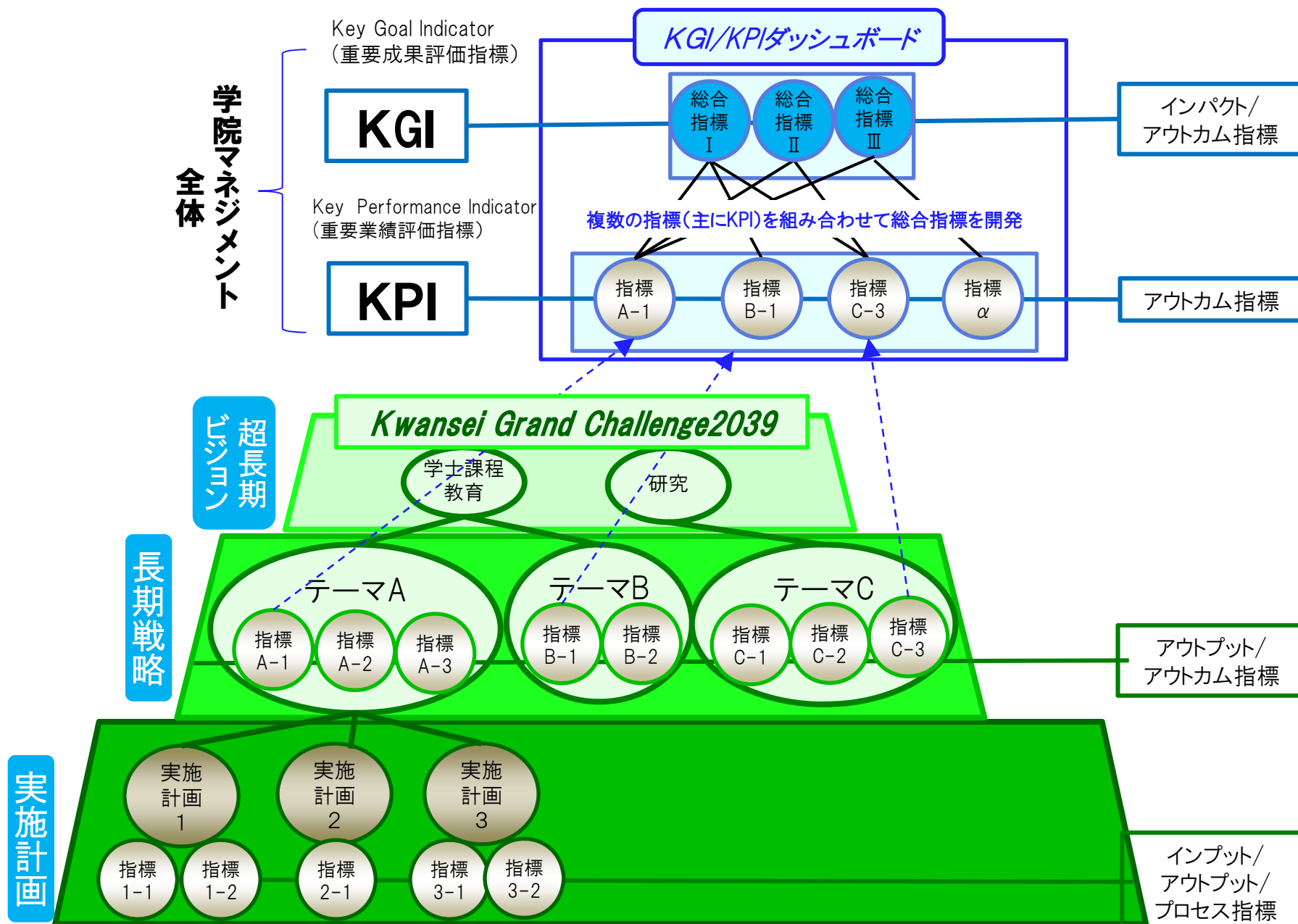


8.学校経営

ガバナンス改革を進め、
総合的マネジメントを実現する



KGC2039の指標とKGI/KPIの関係





8-(4) 新規事業の財源確保

長期戦略の
冊子より

多角的な収入増加、既存事業廃止等の支出削減

ビジョン・戦略を実現するための最重要課題は財源の確保である。方策として、学費、補助金、寄付金、資産運用、事業収入等の増加が必要となる。また、既存事業の廃止を含む支出削減の方策を検討する。このため、2018年度に「財務・業務改革本部」を設置する。

2018年12月に財務・業務改革本部を設置

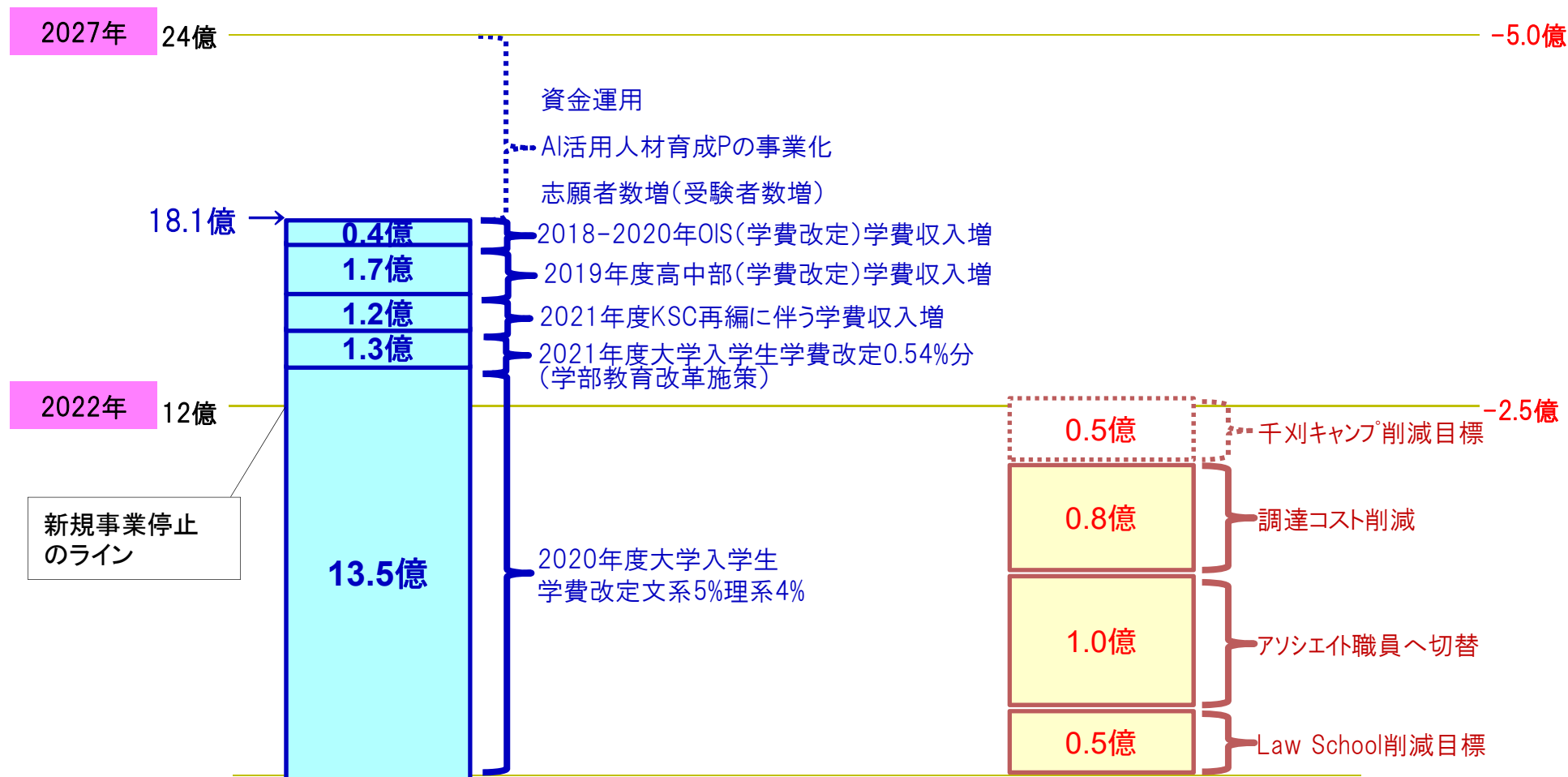
- | | |
|-----------|---|
| (コンビーナ) | 副理事長・学長 |
| (サブコンビーナ) | 常務理事・事務局長、常任理事・副学長 |
| (委員) | 常任理事、財務部長、人事部長、
総務・施設管理部長、大学事務統轄
総合企画部長 |
| (事務局) | 財務部、人事部、学長室、総合企画部 |



8-(4) 財源確保の進捗状況

収入増加

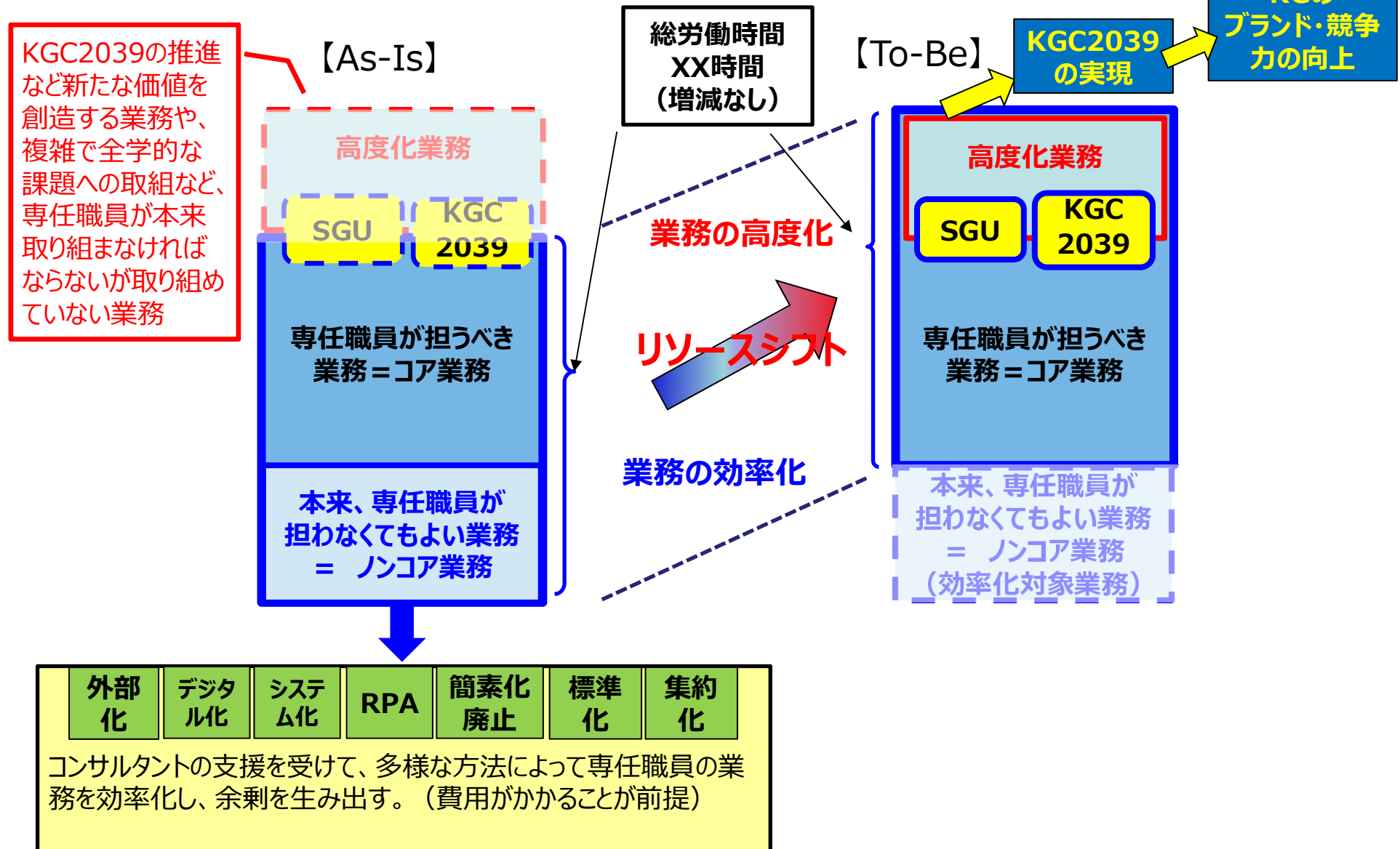
支出削減





8-(4) 業務高度化に向けたリソースシフト

高度化業務へ人的資源のシフトを実現し、価値および競争力の向上を実現する





8-(6) 人事政策の確立

長期戦略の
冊子より

＜職員＞職員の能力向上を追求

教育・研究・マネジメントの質を向上させるため、職員が能力開発によって資質を高め、競争的な環境の中でその能力を最大に発揮することによって、組織としての遂行力を高める。テーマとして、能力開発、生産性の向上、事務組織の再編、人事諸制度の再構築などを検討する。



8-(6)-③ 海外学位取得研修を新設

・2020年9月14日に専任職員対象の海外学位取得研修の新設が決定

目的	国際通用性のある高度の職業人としての大学職員を育成することを目的とする。 派遣者は、海外の大学院で関西学院の発展に資する特定の課題について調査・研究し、日本国における修士号相当以上の学位を取得するものとする。研修終了後は、研修期間に得た高度な専門知識や経験を活用し、本学に貢献するものとする。
派遣期間	上限2年間 (原則として学位を取得する大学院課程の標準修業年限のうち)
派遣人数	各年度2人を上限
応募資格	応募時に①～③すべてを満たす者 ①在職3年以上 ②主務以上の資格 ③45歳未満
経費補助	(1)学費(入学金を含む)、渡航旅費、支度金等の経費は補助しない。 (2)派遣期間1年以上に及ぶ者については、派遣1年を経過する時点で学院への報告のための往復旅費を旅費規程に基づいて支給する(60万円を限度)。
派遣期間中の処遇等	給与の6割を支給(派遣が1年以上に及ぶ場合は、年齢給のみ4月1日時点で昇給) 派遣期間中も在職・勤続期間に算入

2021年度
専任職員1名が
留学へ



8-(7) 施設建設・設備整備計画

長期戦略の
冊子より

西宮上ヶ原キャンパスのアメニティ向上に重点

西宮上ヶ原キャンパスにおいて、学生の移動上の安全性を高めるとともに、分散している各種の学生サービス窓口を集約して学生の利便性を向上させるほか、食堂等の設備充実によるアメニティの向上を図る。



- 実施年は
予定

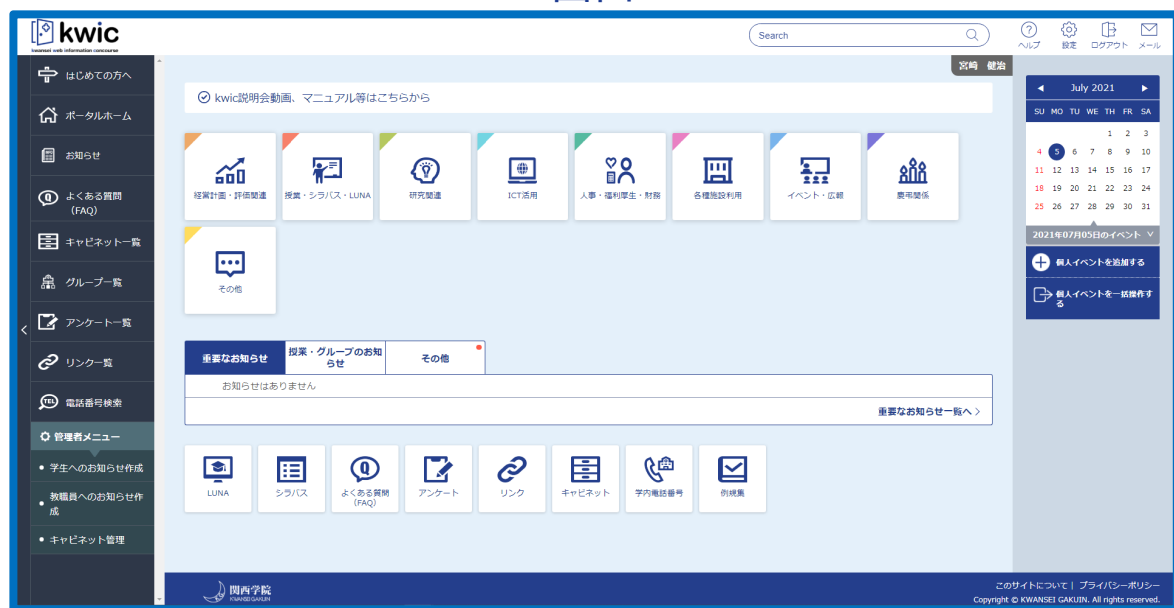




8-(8) 新ポータルサイトの機能概要

学生・教職員向け新ポータルサイト『kwic』の2021年8月下旬からの本番稼働に向け、開発・準備を進めています。お知らせ情報の一元化から、デジタル化、Webによる各種申請などが可能となるポータルサイトを構築するとともに、2023年秋に予定されている各システムリプレイスにあわせて、各種サービスの質的向上の検討も同時に進めています。

PC画面



スマートフォン画面



Point
1

履修登録、LUNA、メール等すべての情報の玄関口に

Point
2

休講連絡、重要なお知らせ等はLINE通知も可能に

Point
3

FAQ機能(よくある質問)で、窓口に行かなくても入手できる情報も



2020年 11月	12月	2021年1月	2月	3月	4月	7月	9月	10月
-----------	-----	---------	----	----	----	----	----	-----



ご清聴ありがとうございました。

関西学院神戸三田キャンパス